

金澤市要覽

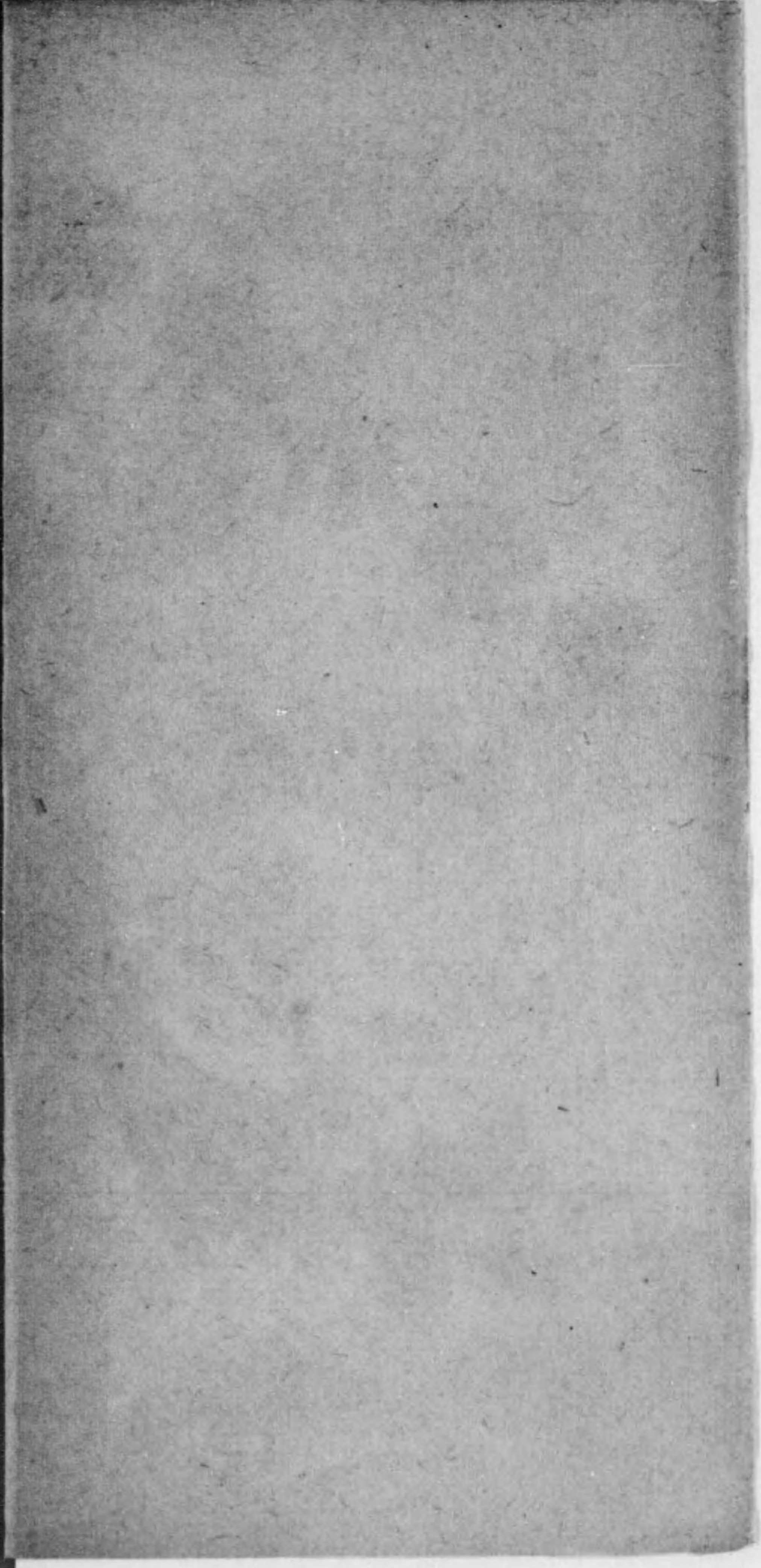
327

9891



始



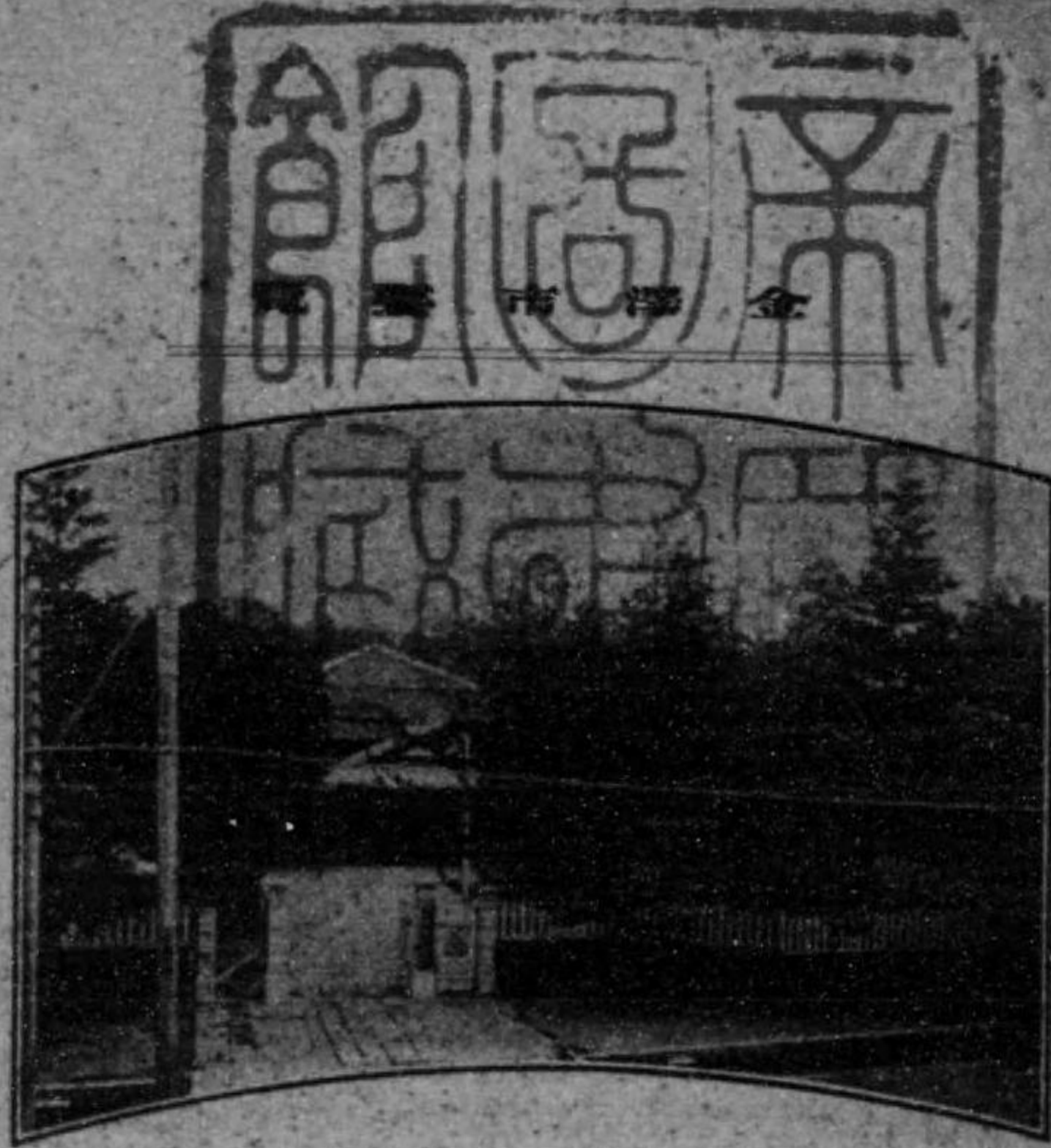


327-989₁



金澤市要覽

大正
7. 3. 1
内交



石川縣廳

金澤市要覽

總說

○位置 市は東經百三十六度三十七分乃至四十一分、北緯三十六度乃至三十五分の間に位置し加賀國石川・河北兩郡の間に介在し西北一里餘にして日本海に達す

○地勢 市は素と國境山脈の縁邊を成せる高臺地が平野と相交はれる地點に在り其地點の市の地勢を構成するに最も著しきものは市内を貫流する犀川・淺野川と其中間左右に夾雜する野田山高地の餘脈、小立野一帯の高臺及び卯辰山にして犀川は市の南部を流れ淺野川は市の北部を流れ其支流は市内を環回し卯辰山は市の東方に蜿蜒として街衢は其山脚に登り山上に達す市内は山上の百四十一米突を最高とし小立野臺の最高七十米突、野田寺町臺の最

金澤市役所發行



芋掘藤五郎碑

町・森下町・金屋町・高道町・山ノ上町(自一丁目至四丁目)・春日町(自一丁目至五丁目)・上大樋町・下大樋町なり

○區劃 市内を第一區より第七區までに分割し市行政に關しては便宜此區劃に従ふこと多し即ち犀川以南を第一區、犀川の東北部を第二區、小立野臺を第三區、淺野川以南を第四區、犀川の以北を第五區、淺野川以南を第六區、淺野川以北を第七區とす

○廣袤面積 市の廣袤は東西一里二十七町、南北約一里七町面積は總べて零里六分四厘なり此歩數は千五十一町二反八畝歩餘に達す内陸地面積は千六町七反二畝十六歩餘にして他を河川面積とす

○沿革 金澤の地は往昔今の兼六公園の邊に山崎村あり人民輻湊して遂に千戸許りの村落となり名をも山崎町と稱ふ文明年中本願寺主蓮如來りて本源寺を建て本願寺の別院となせり後ち堡寨を



金澤市役所

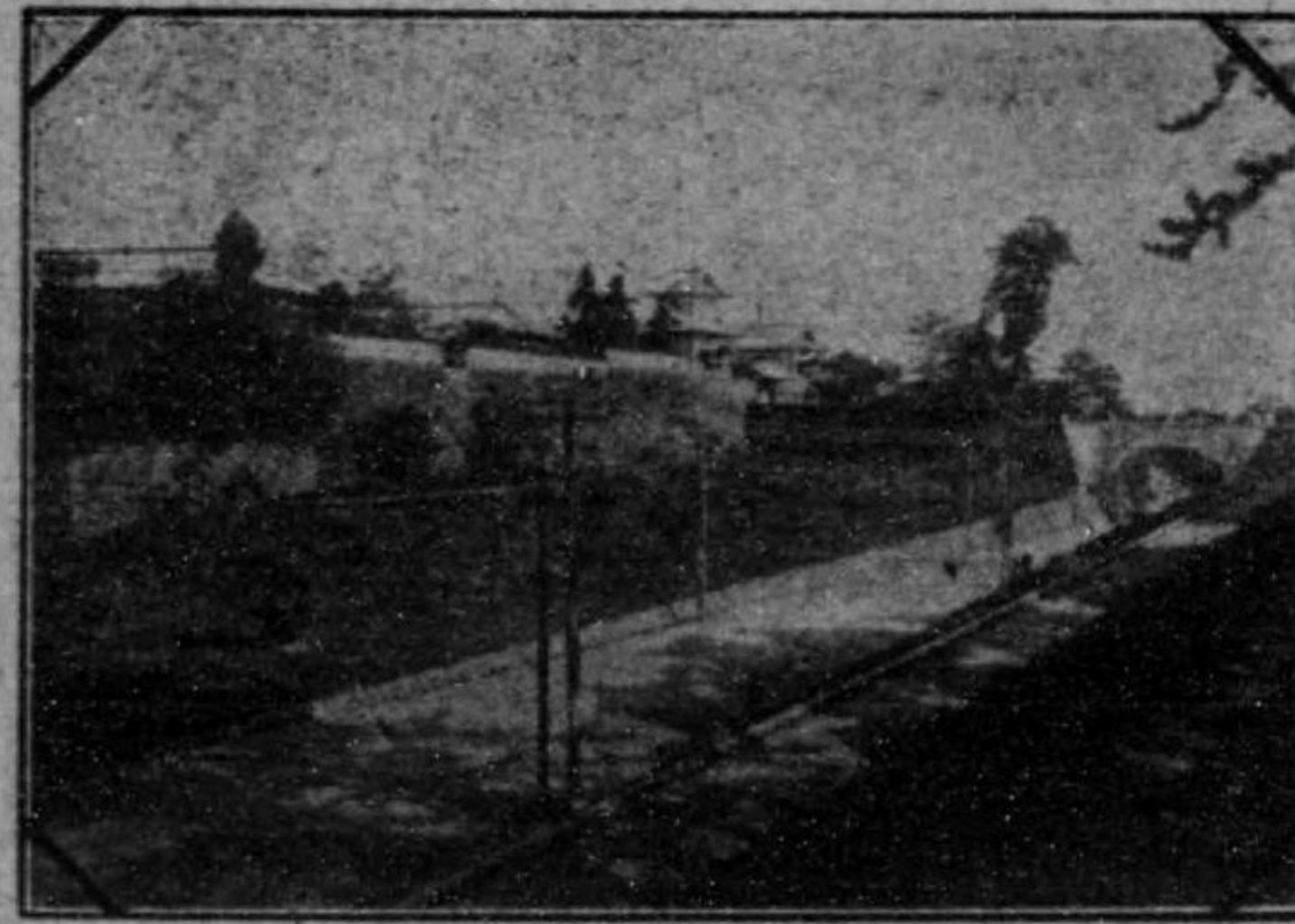
高四十七米突にして最低梅澤町は僅かに七米突に至り従つて大小の坂路は市の東南部に多し市街は東北より西南に嚮ひて延長す

○地質 市の地域を構成する地質は第三紀新層と第四紀層にして第四紀層に洪積層と沖積層とあり

○氣象 市の氣象は既往三十年間に視れば氣壓平均七百五十九耗三氣温十三度二、降水量二千五百三十三耗九、暴風四十七日、降雪五十五日、雨天二百二十三日、快晴二十一日なりき

○道路 市内を貫通する道路は延長合計四十八里二十八町餘にして就中國道は一里三十二町餘、假定縣道は一里六町餘、縣費支辨里道は三十二町餘、里道は四十四里二十九町許りなり

○街衢 市内には五百三十一箇町あり其北陸街道即ち國道線に屬するは有松町・泉新町・泉町・野町(自六丁目至一丁目)・片町・石浦町・南町・上堤町・下堤町・十間町・博勢町・尾張町・橋場



舊金澤城百間堀跡

構へて防禦の備をなし尾山城と稱ぶ宗徒此に居て威福を擅にしたれど天正八年織田信長兵を此地に出し佐久間盛政をして攻陥せしめ盛政に與へたり盛政在城の時南は今の廣坂通より北は今の袋町邊に至るまで市街の状態を成したれど天正十一年盛政賤を嶽の役に亡び豊臣秀吉之を前田利家に與へぬ利家居城してより戸口遽かに増殖し犀川・淺野川二流の内は殆ど市街に屬せり是より後市街は城地を中心として四方に擴大して現今の状態を成し前田氏歴世治所を此に置き三百年間加越能三州百萬提封の雄鎮たり明治四年廢藩の後金澤町と稱し石川縣に屬し九年石川縣第十大區と改稱し十一年更に金澤區と稱へ二十二年より市制を施行して金澤市と稱ふ

○稱呼 金澤はカナザハと訓むを當れりさす口碑に據れば古昔加賀に芋搦藤五郎といへる崎人或日山中に往きて砂金を得しかば

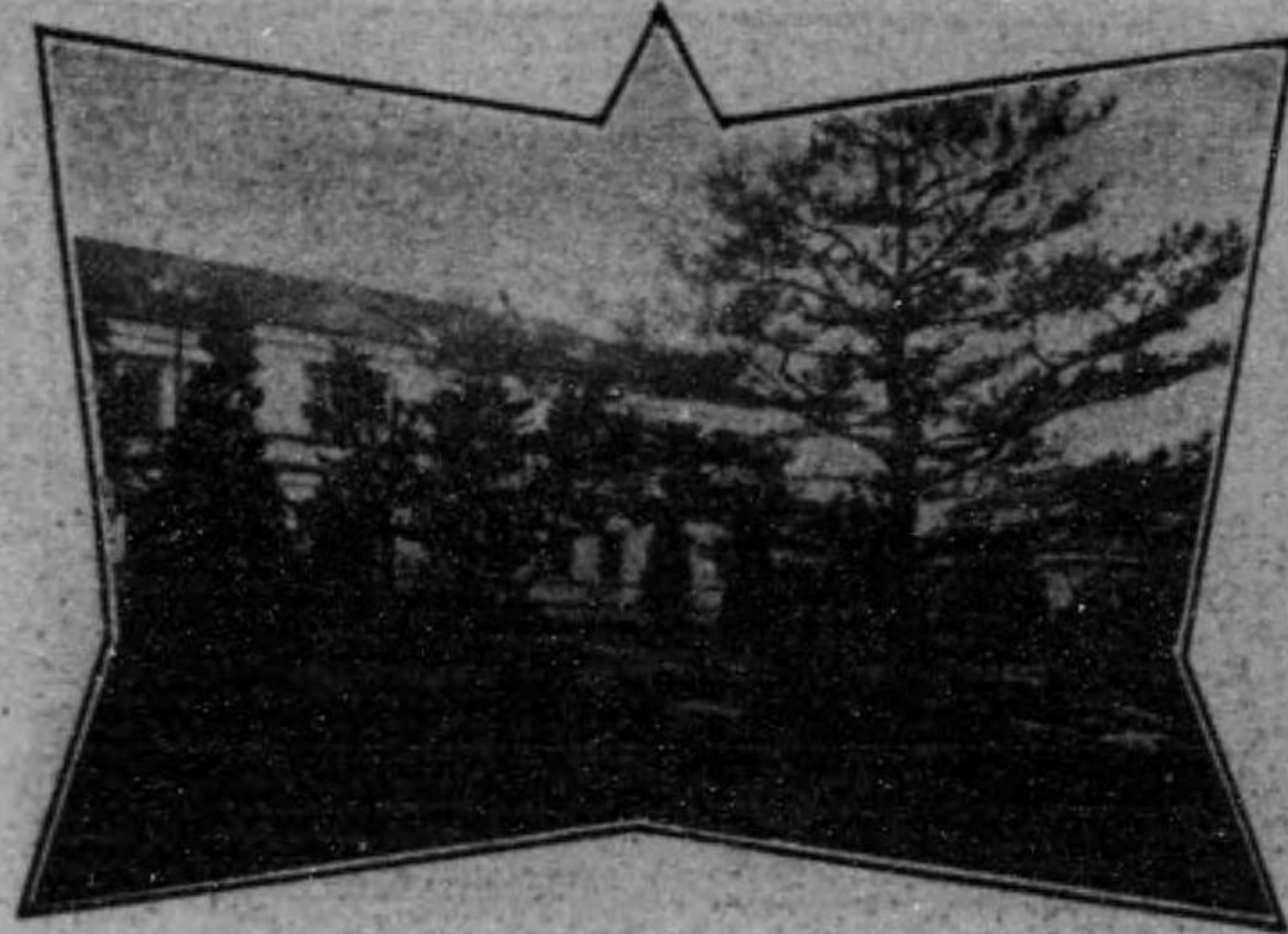
之を澤水にて洗ひ其澤水を金洗澤と呼べるより起れるにて今兼六公園に在る金城靈澤は金洗澤の別名なりといふ

自治

○市役所 市長・助役・收入役各一名の外に書記四十餘名・技師二名・視學一名・書記補四十餘名あり此他技手あり事務員あり掃除監督あり巡視あり此等の人員を合せたる吏員百三十七名を定數とす

○市會 議員は定員三十六名にして議員選舉有權者は常に其員數に増減あれど一級民は四百名内外、二級民は一千五百名内外、三級民は八千名内外を常とす

戶數人口



第九師團司令部

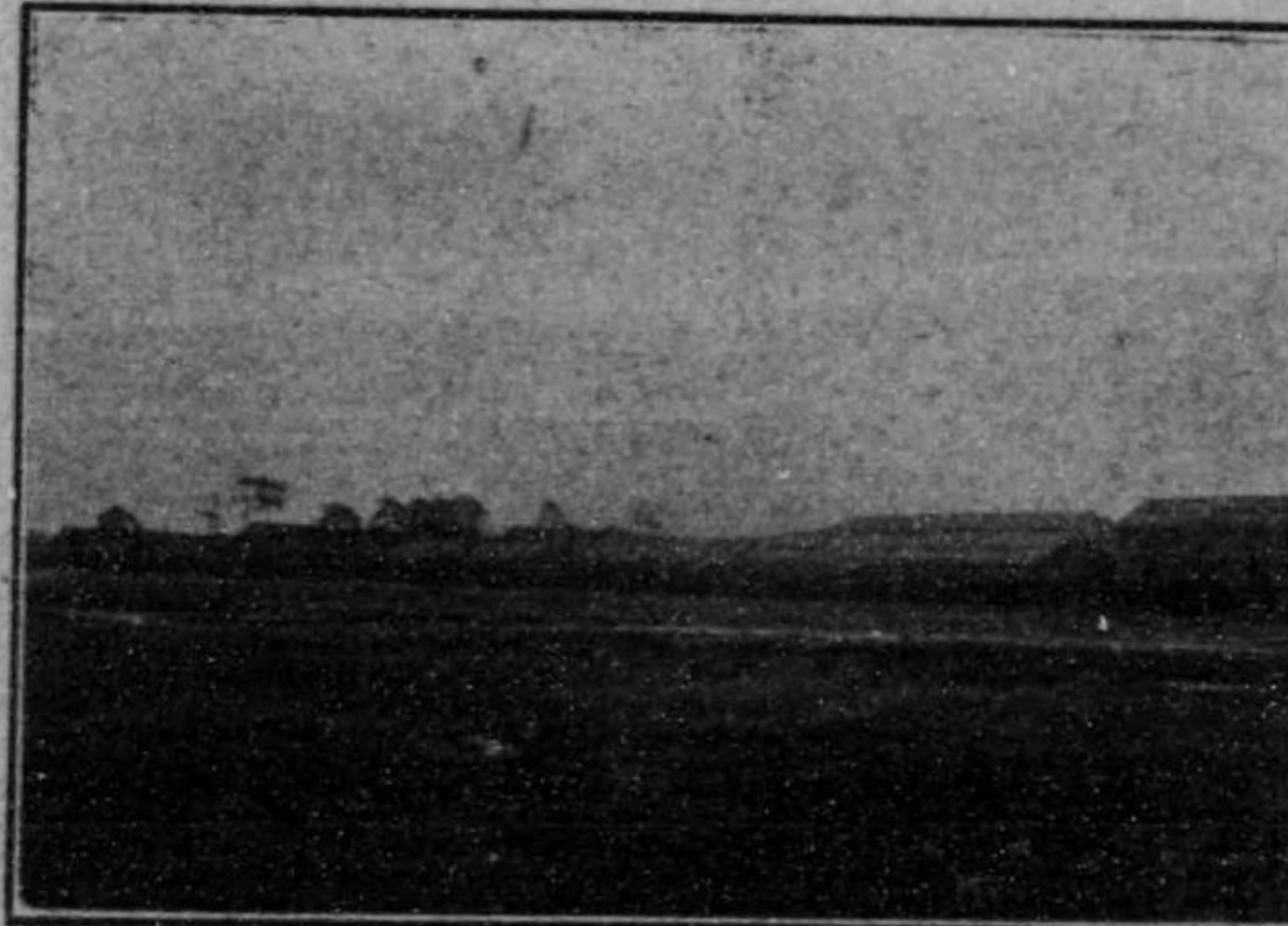


野村

○戸數 戸數は近年に至りて累りに増加し現住戸數合計三萬八千二百以上にして其四萬に達するの日は遠きにあらず之を各區に分別すれば第六區最も多くして七千四百戸を超え之に亞いで六千戸以上は第五・第七の兩區、五千戸以上は第二區・第四區・第一區にして第三區最も少くして纔かに三千戸許りを數ふ

○人口 人口も亦毎年激増の趨勢にあり現住人口は最近に於いて合計十三萬八千人に垂んせり其十五萬人に達するは兩三年を出でざるべし之を各區に分別すれば最多は第六區の二萬八千人許り、第五區の二萬五千人之に亞ぎ二萬一千人に垂んせり第七區、二萬人に殆きは第二區・第四區及第一區にして最少は第三區の八千二百人許りとす

○業務 現住各戸の業務は常に多少の變動なきを免れざれども商業・工業は何れも一萬戸を上下せり雜業・自由業は何れも五千



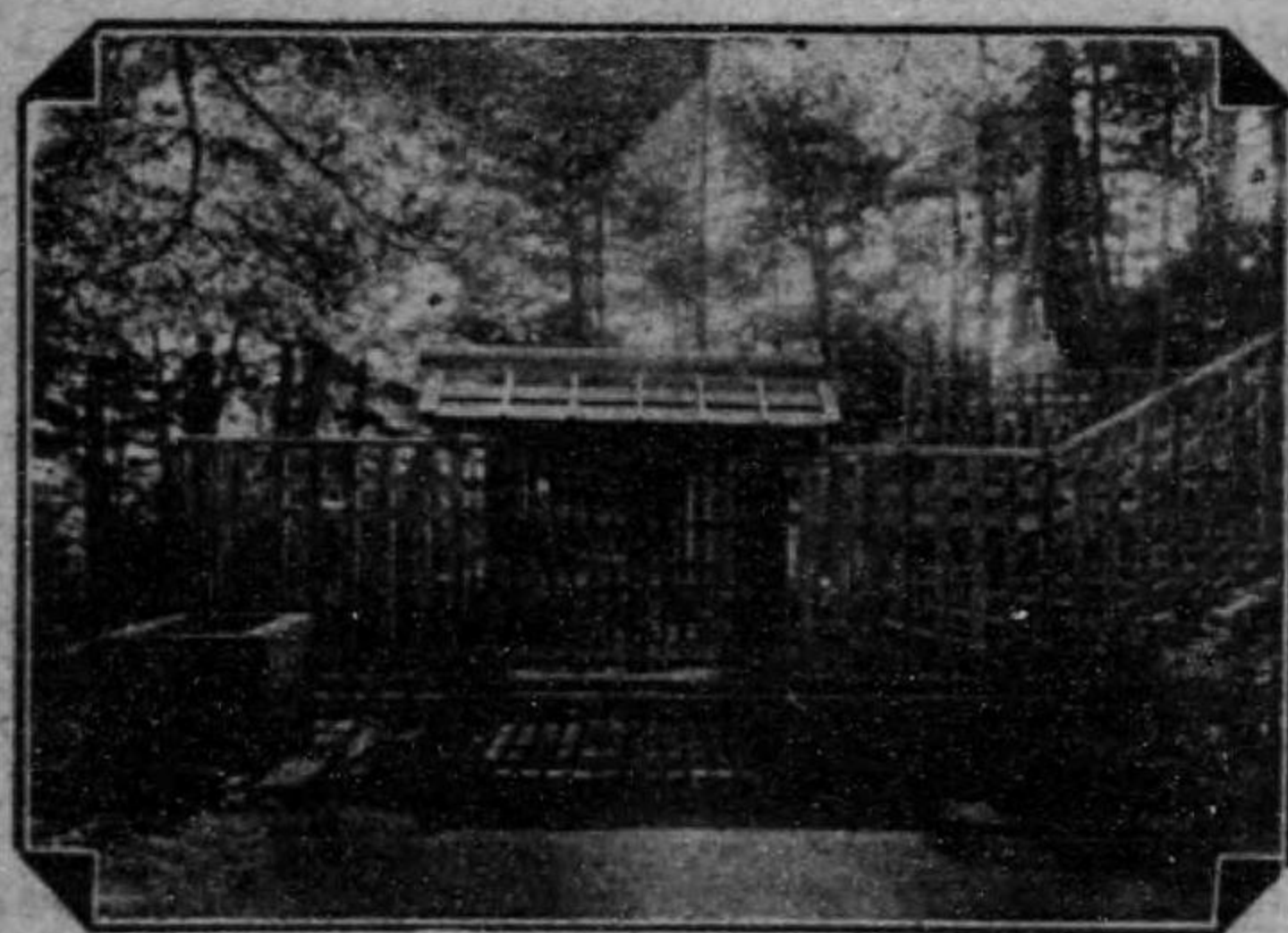
兵營

戸内外にして其他は農業の三百戸内外を多しとす

交通

○鐵道 官設鐵道北陸線は米原・直江津間を貫通し其金澤驛は市の西北隅に設けられたり乗降人員及び貨物發着噸數等は比年増加の趨勢にして乗車と降車の人員は常に殆ど相同しく貨物の到着は發送に二倍するを常とす

○電車 現下一方に於いて市區改正道路擴張の事業を進行しつつあり一方に於いて金澤電氣軌道株式會社の營業に係る市街電氣鐵道の第一期線は不日其敷設を見るべし第一期線は延長四哩三鎖にして北陸線金澤驛の前より字武藏ヶ辻に至り右するものは字香林坊に至りて一は岸川大橋に達し一は紺屋坂の下に達し左するものは字枯木橋に至りて一は淺野川大橋に達し一は紺屋坂の下にて



前田利家墓

他と合し小立野に上り金澤病院の前に至るなり
 又別に長田町より石川郡上金石町に通じ、野町五丁目より石川郡
 松任町に通ずる電車あり前者は金石電氣鐵道株式會社、後者は松
 金電氣鐵道株式會社の營業に係る
 ○人力車 營業の人力車数は常に増減あれども八百臺に下るこ
 と稀れなり又其輓子の員數も概して車數に同じ
 ○旅人宿 旅人宿は常に多少の増減あれども概して二百戸を上
 下せり但所謂る木賃宿は絶えて無し
 ○馬車 金野馬車軌道會社營業の馬車鐵道は白菊町より北陸線
 野々市驛前に至り石川鐵道株式會社營業の輕便鐵道を藉りて石川
 郡鶴來町に至る

通信

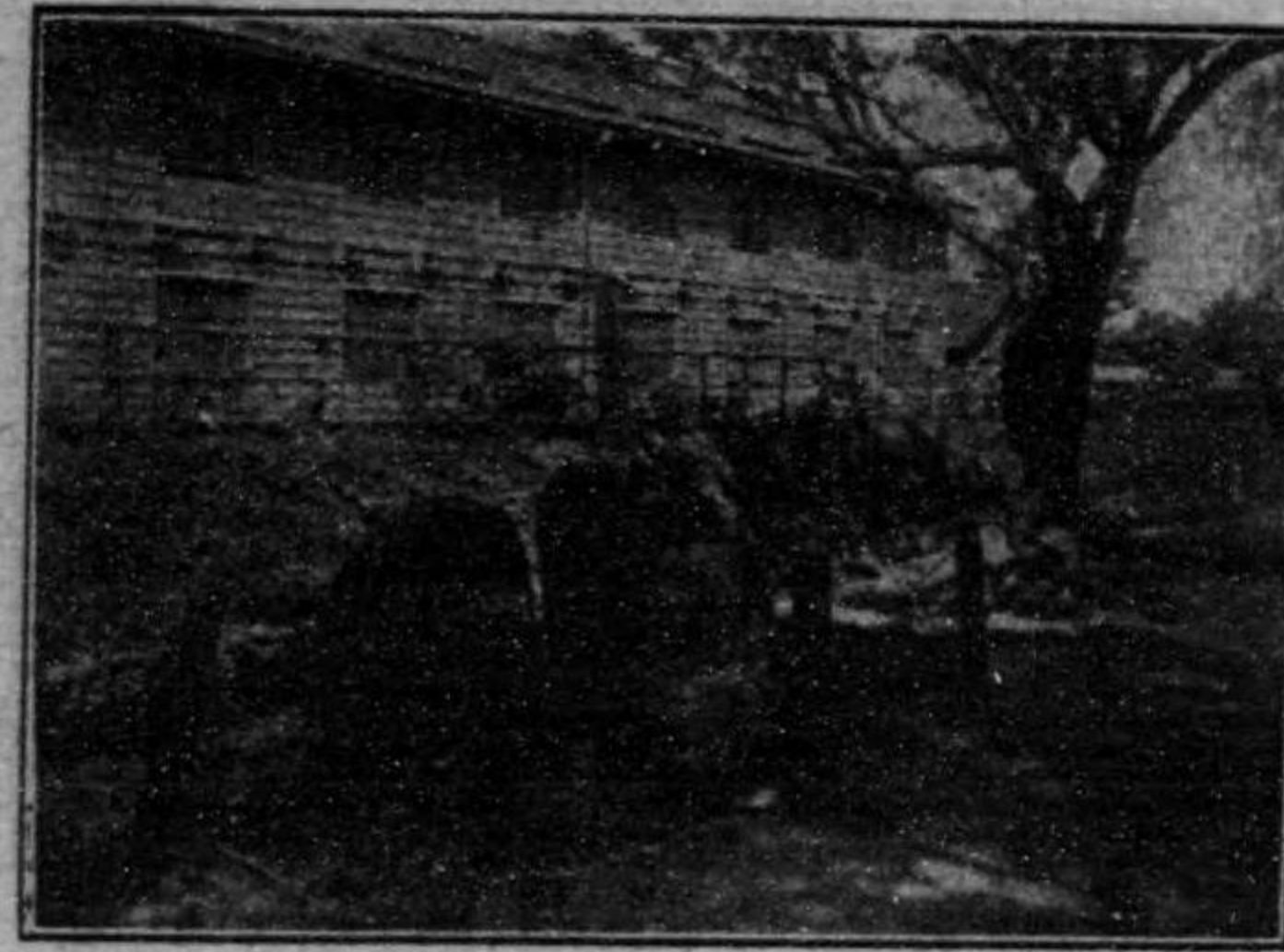


大乗寺

○郵便 市中に通常郵便物の集配事務を取扱へる郵便局は金澤
 郵便局の一ツあるのみなれど其の取扱はざる郵便局は野町・野田
 寺町・片町・廣坂通・新堅町・材木町・中石引町・南町・安江町・
 橋場町・笠市町・英町停車場前・金屋町等にあり
 ○電信 市中に電信を取扱へる郵便局は都べて九ツあり
 ○電話 市中の電話所は郵便局内に設くるもの五個處、自働に
 係るもの十數個處あり又其の交換加入者は二千人を越す

教育

○小學校 市立に係る尋常小學校は都べて十三校にして野町・
 新堅町・石引町・材木町・松ヶ枝町・長町・長土塀・芳齋町・瓢
 箆町・馬場・森山町・菊川町・此花町にあり創立の最も舊きは明
 治三年に創設したる新堅町校なり又尋常高等小學校は味噌藏町に



竹伐孝子復仇舊跡

一校、高等小學校は小將町・高岡町に各一校あり全體を通じて教員數は三百數十名、在籍兒童數は一萬六千名許りにして年毎に増加しつつあり又私立には臥龍尋常小學校ありて小野慈善院の收容兒童を容る

○夜學 市は學齡兒童にして家計困難晝間就學するを得ざるもの、爲め特に夜學を數個處の小學校に設けて就學せしむ其兒童は常に四百名を下ることなし

○市立學校 市立に女子職業學校と商業補習學校とあり商業補習學校に女子部を設く

○官縣立學校 在市の官立學校は第四高等學校と金澤醫學專門學校とあり他に縣立に係るもの商業學校・工業學校・師範學校・高等女學校・中學校等すべて八校あり

○私立學校 私立に北陸女學校・金城女學校・金澤英學院・金

本多政均銅像



二十義士墓

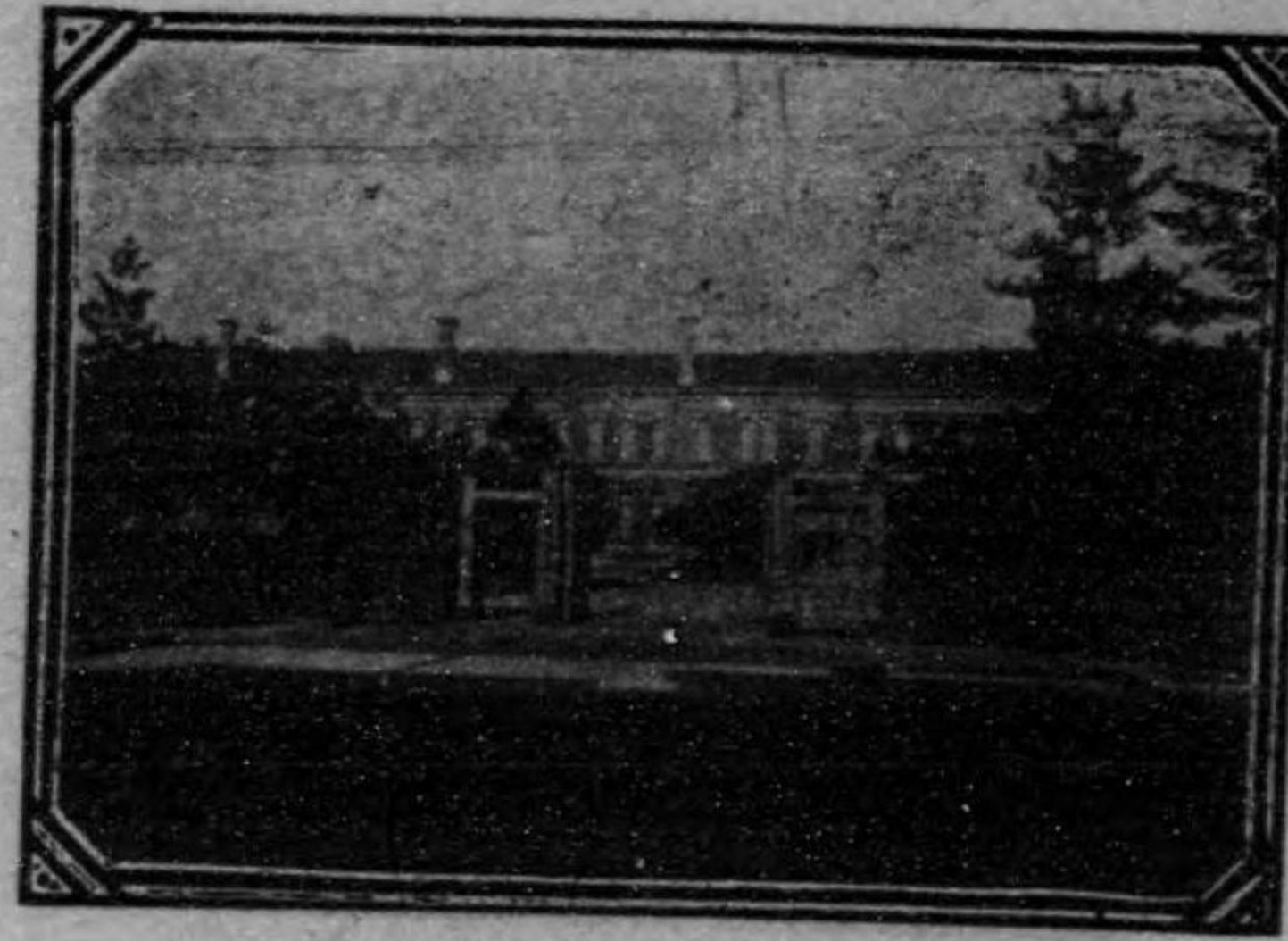
澤盲啞學校あり兩女學校の生徒は何れも百名を超過すること二十名

○幼稚園 六個處の幼稚園あり皆私立に係る

○圖書館 公開の圖書館は唯り縣立圖書館あるのみ

商工

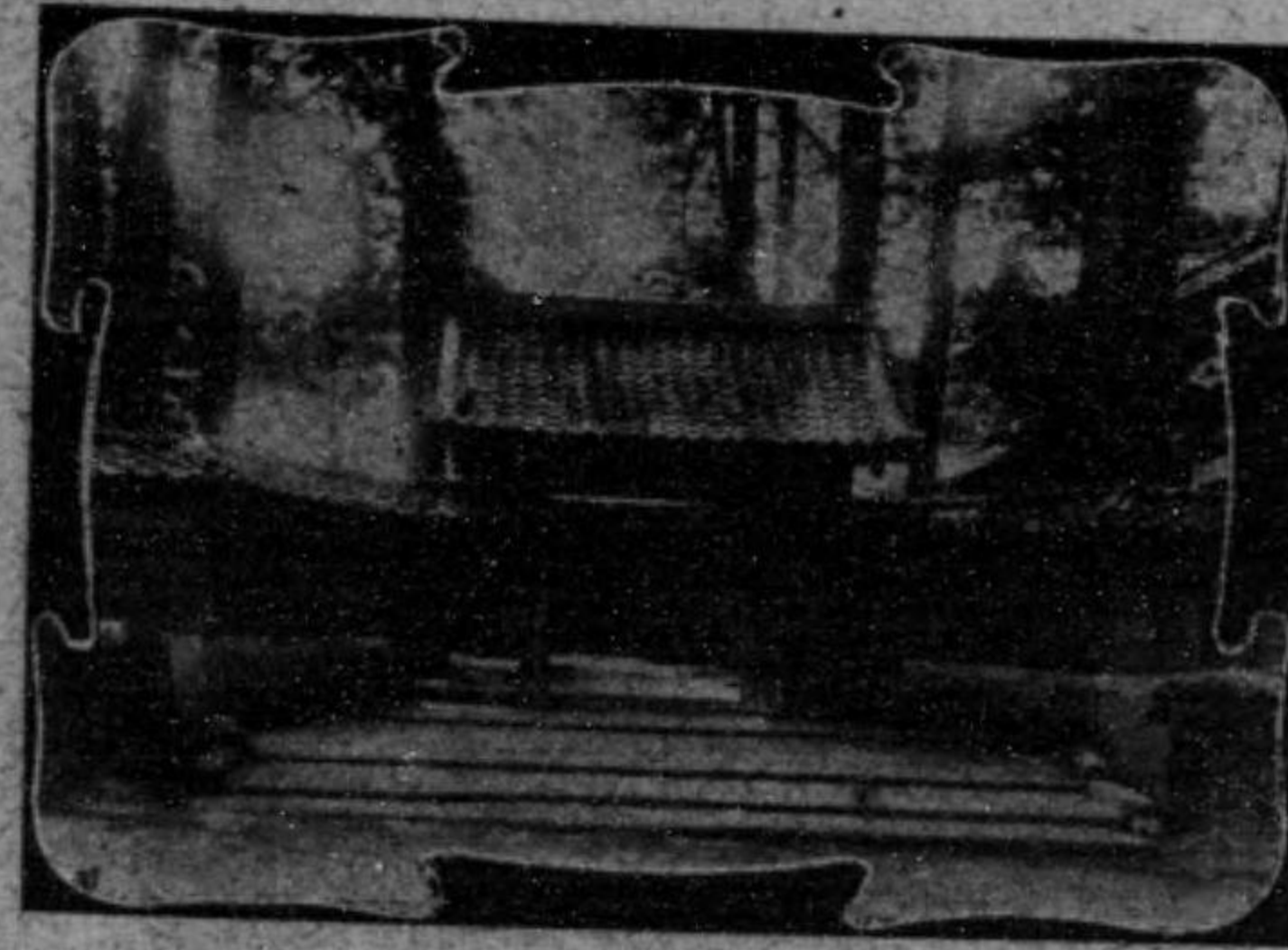
○商工團體 法律に據りて設立したる金澤商業會議所あり議員三十名、特別議員六名を定員とし議員選舉有権者は一千名許なり又市中の有力なる商工業者二百數十名にて組織したる金澤商工協會、貿易關係者にて組織したる金澤貿易協會あり何れも會長を市長に、副會長を助役に囑托す但商工協會にありては大正元年以來毎年全國各都市に金澤市生産品紹介陳列會を開催



第四高等學校

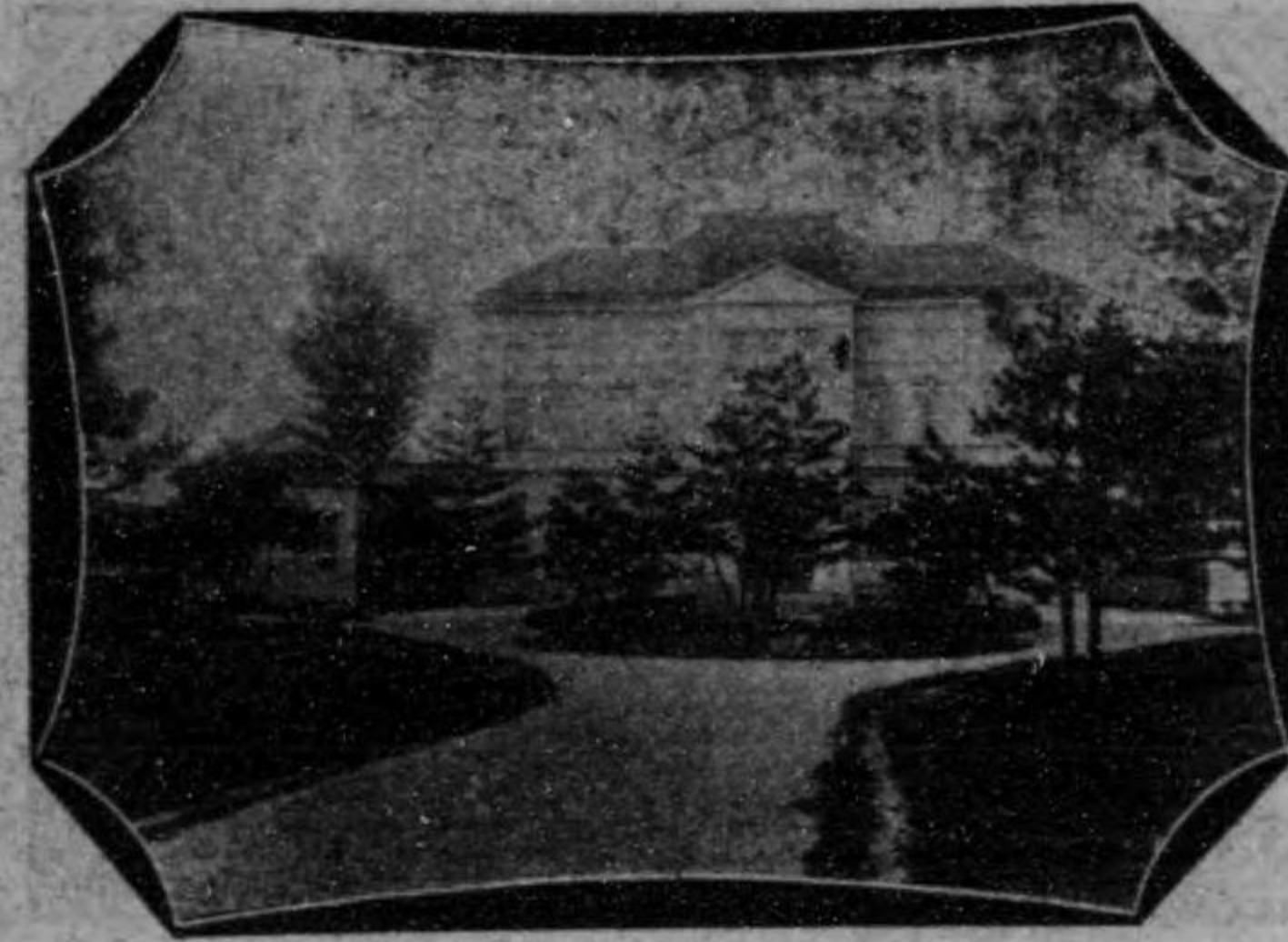
○會社 會社は興廢不斷の爲め常に其數に増減あれど近頃總數一百を下ることなし概して合資會社は株式會社よりも稍々多く株式會社と合名會社は殆ど同數にあり其は銀行業以外の會社にして資本金五百萬圓のものに金澤紡績、貳百萬圓のものに金澤電氣瓦斯、百五十萬圓のものに金澤電氣軌道の諸株式會社あり百萬圓のものに合名の横山鑛業部あり五拾萬圓を超過したるものは株式にては日本硬質陶器・倉庫精練あり參拾萬圓臺のものに株式の東亞製針あり貳拾萬圓臺以下のものに至りては石川縣農業及び金澤米穀取引所を首め金澤倉庫・北陸土木・金野馬車軌道・金石電氣鐵道等其數頗る多し又資本金の多額なるものは明治十年に創業したる米穀取引所の外、大樽明治三十年以後の創業に係れり

會社工場



立像寺

して毎に好成績を収めたり
○商工組合 七ツの重要物産同業組合と十餘の産業組合と準則に據れる二十餘の組合とあり重要物産同業組合とは石川縣輸出織物同業組合・金澤市漆器同業組合・加賀九谷陶磁器同業組合・金澤米穀商同業組合・金澤酒同業組合・石川縣米穀輸出同業組合・石川縣輸出麻真田同業組合をいふ
○物品陳列所 市中に縣立の物産陳列館ある外に金澤に商工協會の附屬事業としての金澤商品陳列所あり
○市場 市中にある定市場は數個處あり即ち其の主なる賣買品を生糸羽二重とする生糸羽二重市場・牛馬羊豚とする家畜市場・青物とする青草市場及び泉青物市場・八百物とする住吉市場及び犀川市場・魚鳥四十物とする魚市場ありて殊に其の中の青草市場と魚市場とは開市以來の舊き歴史を有する市場なり



縣會議事堂

○工場 工場は比年其數を増加し職工十名以上を使役するものは二百に垂んとし職工は已に六千名を超過し工場の大多數は電力等の原動力に藉らざるなし工場の規模の比較的大いにして其數の多きものは輸出羽二重の機業場なること勿論、機業職工は全數の約三分の二を占め何れの工場も明治二十六年以後の創業に係れり其他多數の職工を使役するは金澤專賣支局を首とし硬質陶器・倉庫精練・漁網擦糸等の諸會社及び明治四十四年以後に起れる麻真田工場等なり

工 産

○工産額 重要な工産は時に消長なきにあらず従うて其産額と價額は常に増減ありて一定せざれども近來概して比年増加の趨勢なり工産物の生産價額は壹千五百萬圓を超過し其三分の一許は輸



市會議事堂

出羽二重なること勿論にして箔及紛類・硬質陶器・麻真田等の類は七八拾萬圓以上を占め擦糸・網及網地・刺繡品の類は參四拾萬圓以上に達し清酒・菓子等の類も亦六七拾萬圓許りにして九谷焼の如きは貳拾萬圓に殆ど但農産・畜産等の生産額も亦常に約百萬圓に垂んとせり 其製造戸數も常に多少の増減あれども箔及紛類の五百數十戸を最多とし刺繡品と九谷焼とは八十戸を超え麻真田と輸出羽二重とは四五十戸を上下し網及網地は三十戸内外にして硬質陶器は其會社あるのみ

金 融

○銀行 在市の銀行は本支店とも悉く株式會社にして合名及び個人のもの僅に三四あるのみ本店を市内に有する最大のものに資本金貳百萬圓の加州銀行にして明治二十五年の創立に係り之に亞



木因坊算砂居跡

金は五拾萬圓の石川縣農工銀行にして其他は實かに之に及ばず支店の最大なるものは明治四十二年設置の日本銀行支店を冠とすること勿論にして此外に十二銀行・明治銀行・鴻池銀行・明治商業銀行等の各支店あり又貯蓄本業のものは金澤貯蓄銀行の外三四の支店あり

○郵便貯金 郵便貯金並に爲替を取扱ふ郵便局数は二十に殆し

○質屋 質屋は市中に百戸許あり常に大いなる増減なし

警備

○警察 市中に一ツの本署と一ツの分署とあり本署を金澤警察署、分署を金澤警察署新町分署といふ其の巡查駐在所は四ツ、巡查派出所は二十餘にして署員は常に二百名に近し

○消防 市設の消防機關には第一より第四に至る蒸汽唧筒四組



友田組陶磁器顔料工場

ありて各蒸汽唧筒一臺宛を備へ又第一より第七に至る七組の消防組ありて十數臺の唧筒を有し従業者の定員は四百五十名を超ゆ

○報火臺 市中にある市設の報火臺は都べて十五にして數年前より所謂火見櫓なし

衛生

○病院 市中にある病院は縣立のもの二ツ之を金澤病院と殿町病院とす、市立のもの一ツ之を櫻木病院とす、私立のものに至りては飯森・山田・林・金城等の各病院ありて近年著るしき増減なし之を種別すれば其の大半は普通なれども専門的のものは殿町病院は娼妓の爲めに設け櫻木病院は傳染病の爲めに設けたり又私立の中にも耳鼻咽喉科は二ツ、呼吸器科は一ツに過ぎず病院の所屬員は醫師七十名許り其の他調劑員及看護婦等を合せば二百名を



兼六公

超ゆれど其の半数は縣立の金澤病院に屬するこゝ勿論なり
 ○醫師其他 市中の開業醫は常に三百名内外を數ふ又た藥劑師は四十名許、産婆は八十名許あり、唯だ齒科醫は十名を上下するに過ぎず
 ○塵埃焼却場 塵埃焼却場は悉く市營に係れるものにして四個處にあり市中各戸より蒐めたる塵埃汚物を焼却し其の灰を賣却して市の收入とす
 ○火葬場 火葬場は悉く市營に係り泉・長田・談議所の三個處に設く火葬には其の使用料を徴し胞衣汚物には其の焼却料を徴して市の收入とす
 ○屠場 屠場は市營のもの一個處あるのみ



園瓢池

救濟

○縣市救濟 縣市何れも年毎に豫算を定め市中の貧民にして私立救濟所に收容せられざる者を救濟し尙ほ各私立救濟所に對して年毎に補助金を下附せり其の金額は常に一定せず
 ○救濟所 市中にある救濟所は都て三あり其の中の二ツは財團法人の組織にして小野慈善院といひ加能慈善保護場といふ一ツは會社組織にして金澤育兒院といふ又た別に石川縣育成院あり縣に於いて感化法に據り設立るものなせり

社寺教會

○神社 市中に二十八の神社あり其の中に一ツの別格官幣社尾山神社を首とし、二ツの縣社即ち椿原神社・宇多須神社及び八ツ



兼六公

の郷社、九ツの村社の外に無格社七ツと招魂社一ツとあり郷社の大なるは石浦神社・安江神社・泉野神社等なり村社の古きは久保市乙劔神社・三社白山神社等なり又此に奉仕する神職三十名許なり

○寺院 市中にある寺院は二百五十ヶ寺にして住職二百數十名あり就中真宗は兩本願寺別院の外に光専寺・専光寺等約百ヶ寺、日蓮宗は立像寺等四十九ヶ寺、曹洞宗は天徳院・寶圓寺・浮住寺等四十數ヶ寺、淨土宗は如來寺・妙慶寺・光覺寺等二十餘ヶ寺、眞言宗は寶集寺等十餘ヶ寺にして臨濟・天台は皆少く時宗は僅かに玉泉寺あるのみ

○教會所 神道の教會所は十個處許あり中に就き天理教多くして五個處を數ふれども黒住・金光・御嶽等諸教は何れも一個處に過ぎず



園霞池

○教會堂 日本基督教會の會堂は四個處あり天主教・日本メソヂスト派教會及び日本公會聖約翰教會の會堂も亦數個處あり

工品名物

○工品 特種工品の主なるものは陶磁器に九谷焼・硬質陶器の二種の外に大樋焼・鶯谷焼等あり青銅器は加賀象眼・加賀銅器の二種に大別し髹漆器は大別して加賀蒔繪と金澤漆器との兩種とし絹織物に輸出羽二重と内地用絹織物あり染物に加賀友禪と加賀兼房あり網糸に漁網・漁網擦糸あり金銀箔・箔屏風等の箔類あり造花・刺繍品等の絹製品あり陶磁器顔料あり茶湯釜あり菅笠あり眞麻田・鉛筆、桐火鉢・燗寸等は特種工品といふに當らざれば亦製出す

○名物 特種名物の主なるものは菓子類及び食料品にして菓子



兼六公園金城霊澤

類には長生殿・兼六園等の名ある御所落雁を首め壽煎餅・胡桃漬等あり食料品には朝生茶と梅精とあり

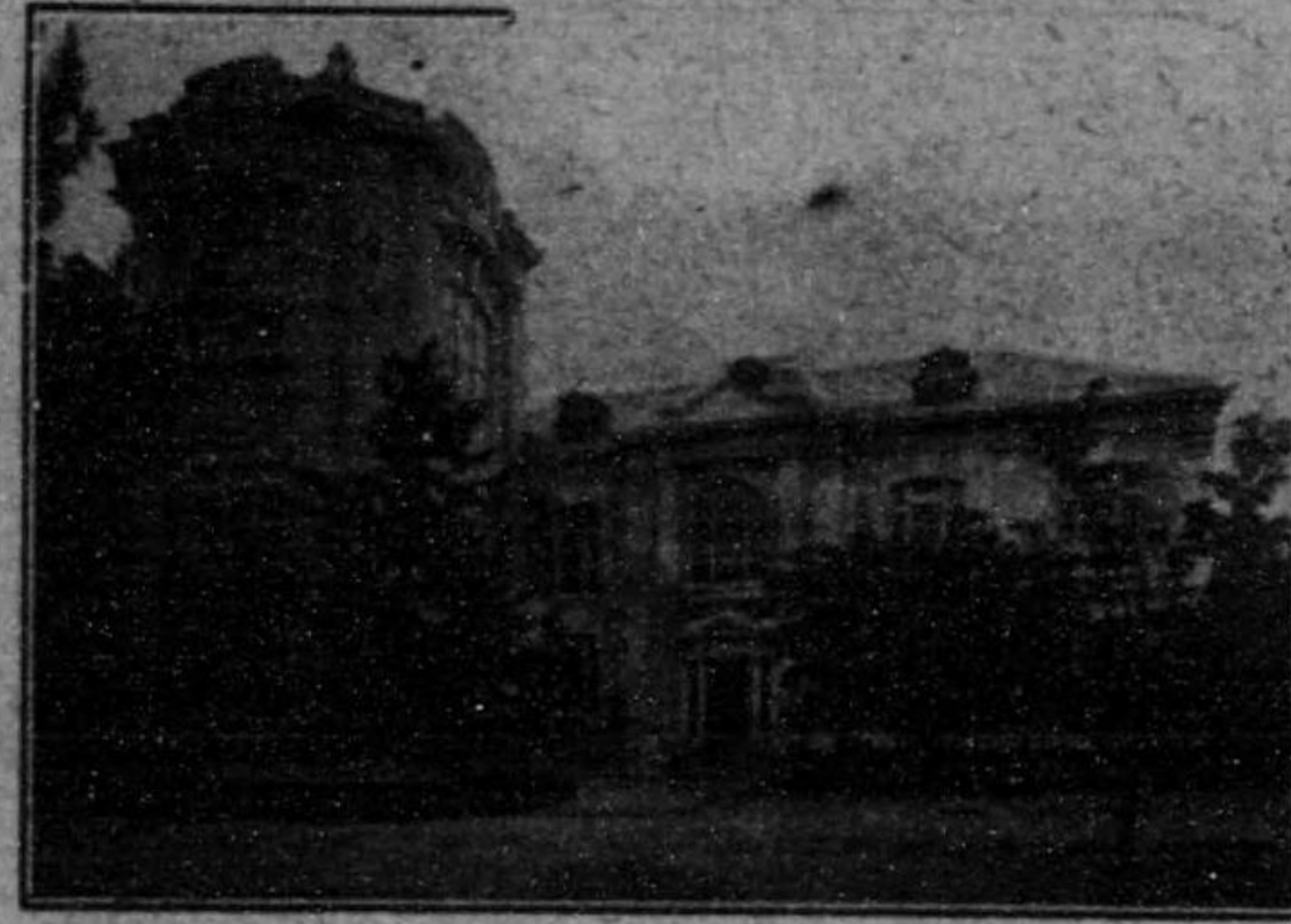
第一區

○野村兵營・東南郊外野村の地に在り一方は歩兵第三十五聯隊・騎兵第九聯隊・一方は野砲兵第九聯隊・工兵第九大隊・輜重兵第九大隊の各兵營野田山往來を挟みて建ち野村練兵場は其隣に在り兵營は明治三十年金澤に第九師團を置くに當り建設せり
○竹伐孝子復仇舊蹟・歩兵第三十五聯隊兵營の前邊を其地となす元和元年加賀石川郡曾谷村の孝子三太は父母及び二兄の爲に加賀藩士山田權左衛門を殺して宿讐を報せり今は石を樹て、標す
○孟宗竹林・東南郊外の地方に鬱然たる孟宗竹林あり明和年中



石川縣物産陳列館

加賀藩の足輕岡本右太夫其子内田孫三郎江戸より兩三株を携へ歸り櫻島自邸の後庭に植へたるに原つけり
○前田利家墓・野村兵營を隔て、野田山あり山上に翠松茂生し冢墳幾萬なるを知らず之を市の共有墓地とす山嶺に利家の墳塋あり封土の高さ五間許周圍四十八間餘木柵を繞らす又前田家累世の墓其傍に多し
○大乘寺・野田山と相並へる寺地山に在り曹洞宗越本山永平寺三世僧徹道の開創にして嘗て後柏原天皇の勅願所、將軍足利氏の祈願所たり
○十二義士墓・大乘寺に在り明治二年加賀藩執政本多政均藩政を改革し物議を招き遂に反對黨に構刺せらる黨輿の中に對せられざる者ありしかば本多氏の故臣十二人之を仇として報復し各罪に伏す時人之を義とせり



石川縣立圖書館

○祇陀寺 野田寺町一丁目に在り正慶二年加賀守護富樫氏石川郡吉野郷に建立し唐より歸朝したる名僧大智を開山すと日本曹洞宗第六道場として著名なり藩主前田氏の時金澤に移れり

○寶集寺 野田寺町一丁目に在り嘉祿二年眞言の僧光寶關東に建立し寛永年中金澤に移り藩主前田氏の祈願所となれり

○金澤市屠場 仙人町に在り明治四十四年の創設に係り其屠畜は牛・馬及び豚にして屠牛數最も多く毎年千五百頭内外に達す

○立像寺 野田寺町四丁目に在り永仁二年名僧日像越前に建立せり後ち前田利家に從ひ金澤に移れり日蓮宗の名刹にして碩學の聞ふ高き日輝の墓あり

○大櫻 野田寺町五丁目松月寺に在り高さ四丈許り根株十抱に餘り蔓枝路を蔽ひ花時の觀望頗る美はし市中隨一の老櫻なり

○芋掘藤五郎塚 野田寺町五丁目伏見寺に在り藤五郎は往昔彼



石川縣金澤病院

兼六公園内の金洗澤にて砂金を洗ひし崎人なり其記念碑を藤五郎塚と呼ぶ別に寺内に藤五郎夫妻を葬れりといへる二子塚あり

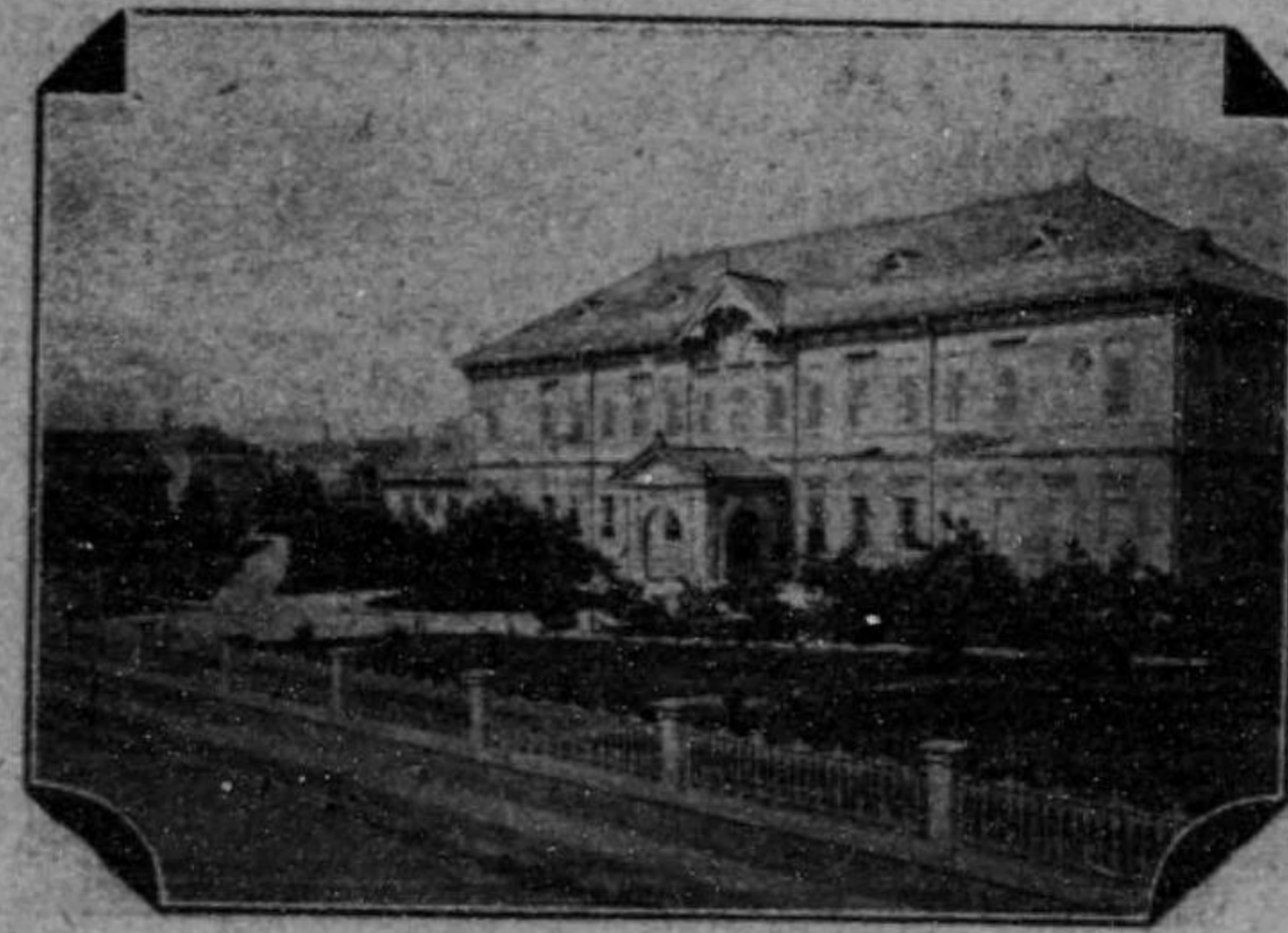
○駒井躰庵墓 野田寺町五丁目淨安寺に在り贈正五位躰庵は加賀藩の勤王家にして長州志士の間に最も重きを置かれたり

○福岡惣助墓 蛤坂町承證寺に在り贈正五位惣助は加賀藩の勤王家なり

○泉野神社 野田一丁目に在り天照皇大神を祀り俗に神明宮といふ藩主前田氏厚く崇敬したり郷社にして春秋の祭禮に詣者雜沓を極むること市中諸社に冠たり

○市立櫻木病院 茶島に在り市の常設傳染病院にして明治四十年の設立に係れり病室を有するこゝ一等八室、二等四十二室、常置の醫長、醫員其他所屬員は計二十名許りとす

○清水誠墓 三間道玉泉寺に在り贈從五位誠は日本にて始めて



金澤醫學專門學校

機寸を製造し機寸の輸入を防遏したる功勞者なり寺は古より遊行上人の留錫處なるを以て著はる

○不破富太郎墓 沼田町安立寺に在り贈正五位富太郎は加賀藩の勤王家なり

○石川縣師範學校 芦中町の後背に在り本校は明治七年石川縣集成學校を置きて小學教員を養成したるに淵源せり十六年女子師範學校を廢し男女兩部を併置せしかゞ此校舍成るに及び復た別ちて男女兩校を設けたり今は石川縣農業補習學校を併置す

○松金電車發着所 野町五丁目に在り金澤・松任間五哩餘に電車を運轉す

○金野鐵道馬車發着所 白菊町に在り金澤・北陸線野々市驛哩餘に鐵道馬車を運轉す



天德院

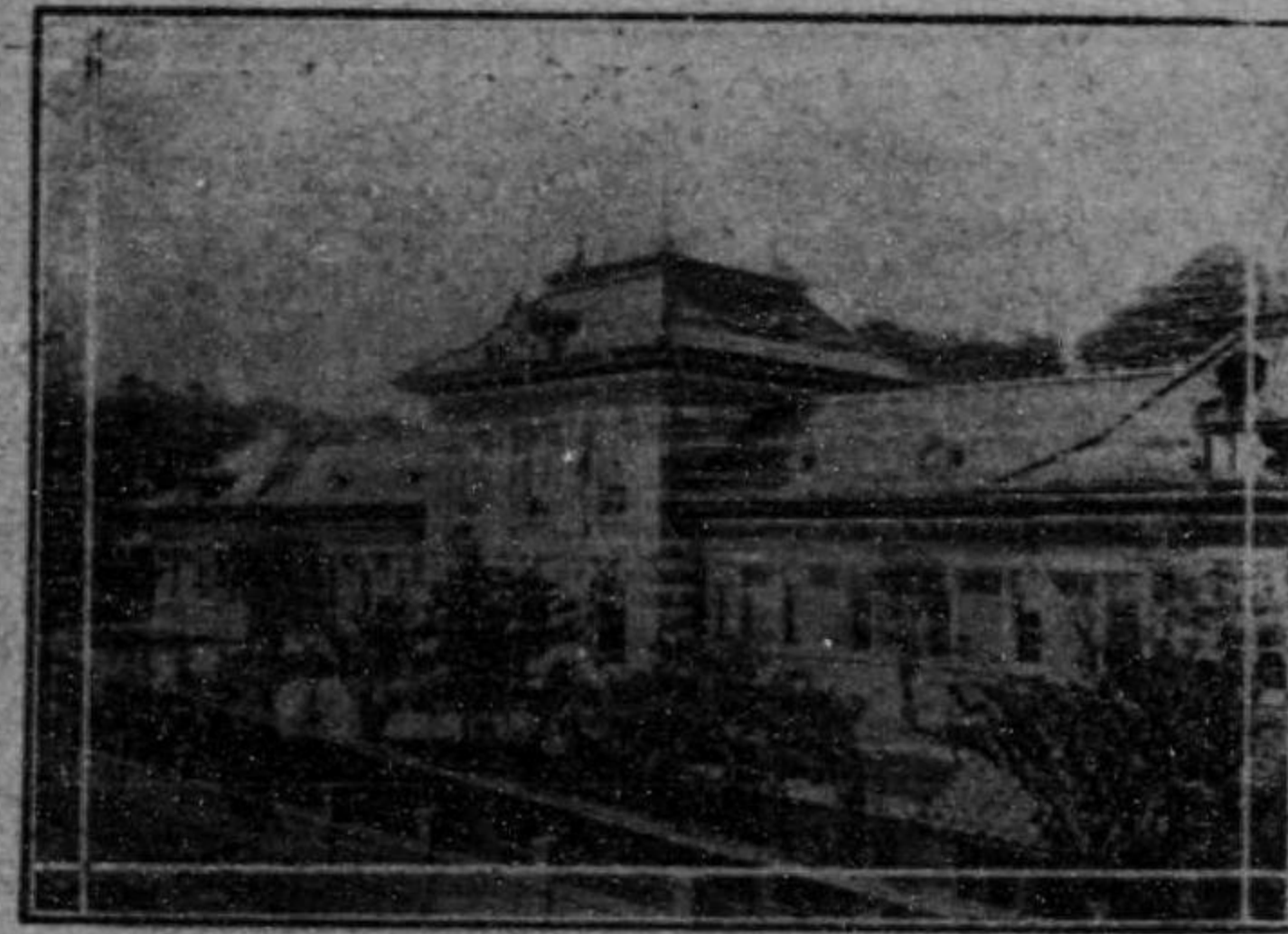
○石川縣立工業學校 中本多町に在り明治二十年金澤區に於て始めて設置し金澤工業學校といへり越えて二十二年縣立に移したるにて圖案繪畫・窯業・漆工・染織・金工の諸科を置く又四十一年石川縣立工業補習學校を附設して簡易工業教育を施す

○北國漁網燃系合資會社 中本多町に在り舊藩の時薄祿の士は漁網を手内職としたるが今は許多の工場にて製造す本社は初め手燃なりしを近ごろ動力器械を用ゆるに至り其規模比較的大なり

○私立金城女學校 中本多町三番丁に在り明治三十八年の創立に係り小學教員試驗を受くる者の爲に教ゆ

○金澤電氣瓦斯株式會社 下本多町六番丁に在り明治三十一年の創業にして電氣及び瓦斯を市内外に供給するを業目とし發電所

第貳區



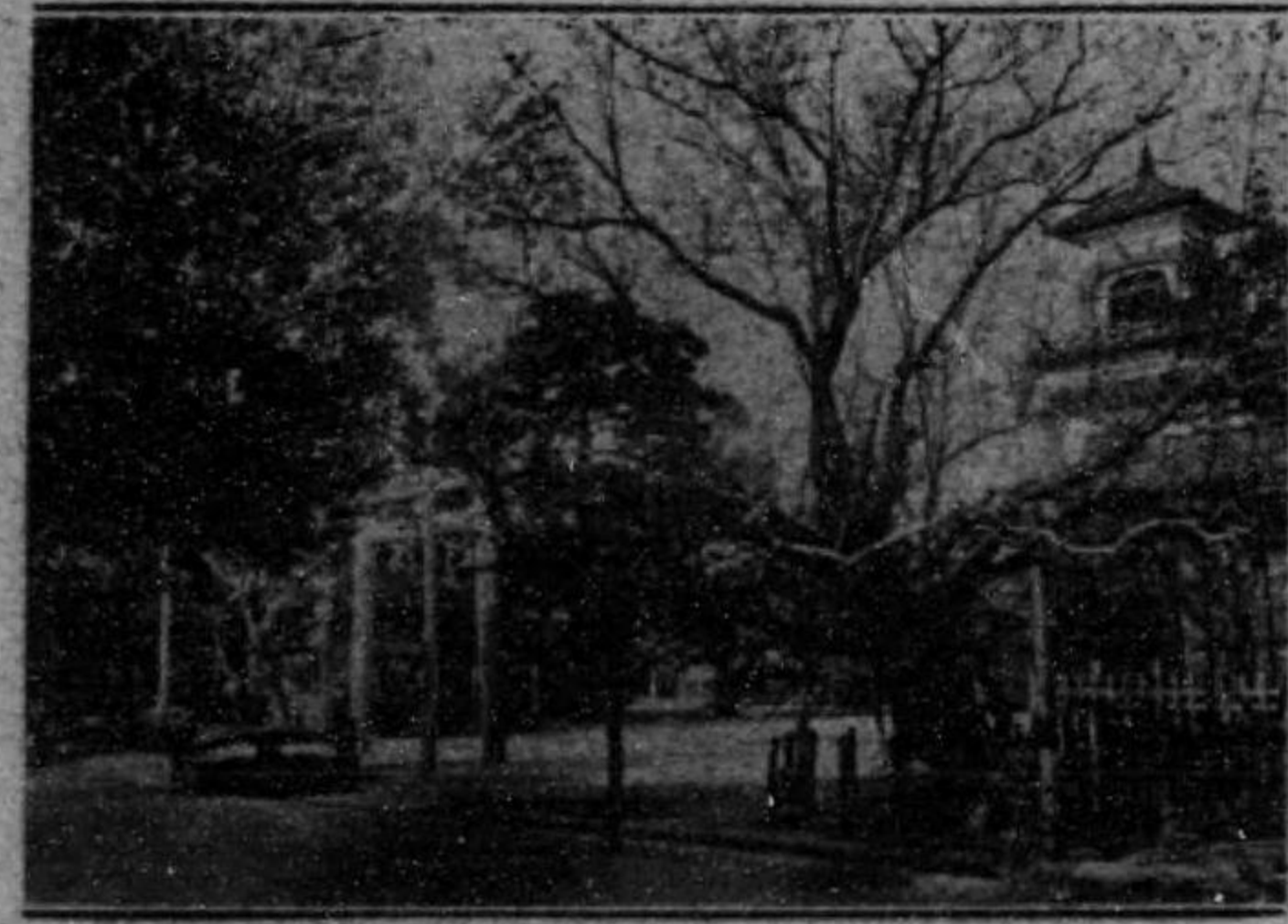
金澤地方裁判所

を犀川筋の辰巳・手取川筋の福岡等に設く
 ○石川縣立金澤第一中學校 下本多町六番丁に在り嘗て變則中學校・啓明學校・初等中學校等相次いで起り中等教育唯一の機關なりしが後ち共立尋常中學校を起したれど明治二十六年始めて縣に於て本校を設置せり
 ○友田組陶磁器顔料製造所 ふ姓町に在り明治二十年友田安清陶磁器顔料の製造を創め遂に優等顔料百餘種を製出し又黄金製顔料を製す
 ○石浦神社 廣坂通に在り三輪大物主神を祀る異説に式内三輪神社ともいへり舊は加賀藩の執政本多氏の祈願所なるを以て著はる氏子の多きこと市中諸社に冠たり今は郷社に列す
 ○石川縣女子師範學校 廣坂通に在り大正二年の設立に係れり
 ○石川縣立第二高等女學校 石川縣女子師範學校に併置す大正



金澤市會堂

二年の設立に係れり
 ○私立北陸女學校 上柿木島に在り明治十八年の設立にして文部省指定の學校なり附屬幼稚園を置く
 ○金澤市役所 廣坂通に在り廳舎は明治十七年金澤區役所として設立したる建物に數たび増築して使用す明治二十二年市制實施以來市長を代ふること五たび稻垣義方・長谷川準也・男爵奥村榮滋・渡瀬政禮を歴て今の山森隆に及び助役を代ふること六たび大森孝次郎・佐野謙吉・高島伸二郎・小川長堅・堀俊明を歴て今の飯尾次郎三郎に及びり
 ○金澤市議事堂 廣坂通に在り階上を市會議場に充て階下を數室に割す又公衆の集會に貸與す
 ○金澤警察署 廣坂通に在り明治七年始めて石川縣廳内に置き十二年新たに廳舎を建て大正三年復た茲に新築せり



別格官幣社

○日本赤十字社石川支部 廣坂通に在り明治三十七年の新築に係れり

○大日本武徳會石川支部 廣坂通に在り日を定めて劍道・柔術・弓術等武術の稽古をなす

○石川縣廳 廣坂通に在り石川縣は現今加賀能登兩國一市八郡を管轄す廳舎は初め金澤藩廳の附屬營修局の建物を用ひ明治十三年に至りて新築し後ち多く建増せり石川縣の名は最初廳舎を石川郡美川町に置けるに原づけり

○縣會議事堂 廣坂通に在り階上を議場となし階下を數室に別つ時として公衆の使用に供することあり

○第四高等學校 廣坂通に在り明治二十三年に開校したるものにて石川縣專門學校に起原せり初め第四高等中學校と稱し後ち今



尾山神社

の名に改めたり

第參區

○天徳院 上鶴間町に在り元和九年加賀藩主前田利常の建立したる曹洞宗の巨刹にして利常は寺領五百石を附し尋で藩主前田綱紀は明國の黃髮僧高泉を召し祖廟佛殿を建造せしめたれど後ち山門等の外悉く火災に罹り諸堂を再營せり

○如來寺 上鶴間町に在り藩主前田氏の菩提所にして寺領二百石を有し淨土宗の巨刹なりしかど廢藩の後ち大に衰へたり

○千秋順之助墓 上鶴間町經王寺に在り贈正五位順之助は加賀藩の勤王家なり

○金澤醫學專門學校 下鶴間町に在り藩政の末に設立したる金澤醫學所に起原せり明治三十四年第四高等學校の醫學部を割きて



市立女子職業學校

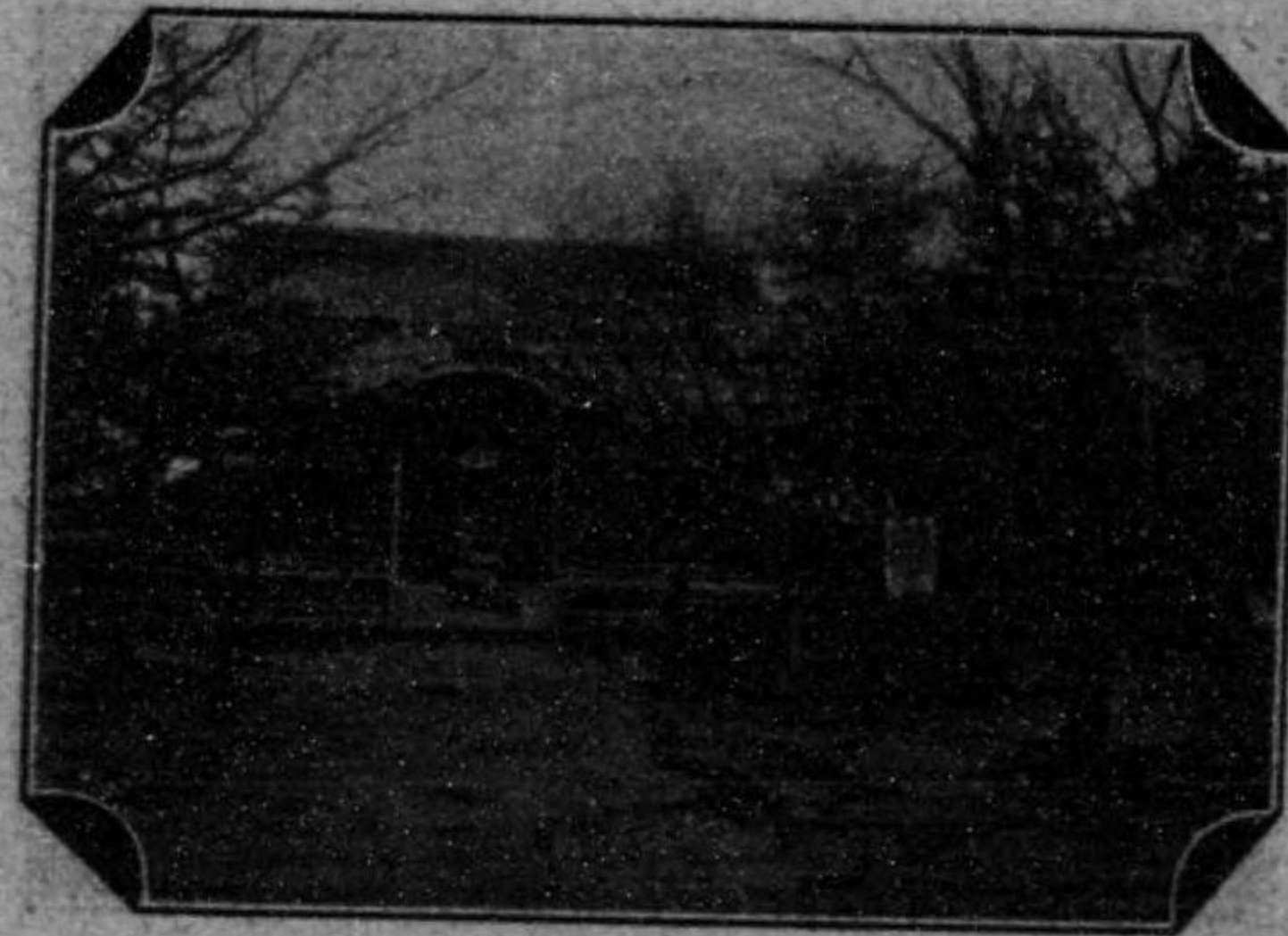
新たに設立したるものにして生徒の臨床實習は金澤病院に於てす
但今の校舎は大正三年に落成せり

○石川縣金澤病院 下石引町に在り慶應三年藩費を以て卯辰山
に種痘所を置き明治六年公立病院の組織に改め尋で金澤病院と改
稱も以て現今に追ふ今の院舎は明治三十八年に竣成したるもの
に醫師及び其他附屬員は常に二百名に垂んとす

○寶圓寺 下百々女木町に在り天正十一年加賀藩祖前田利家建
立して名僧大透を開山とし前田氏の菩提所なり歴代の住持は曹洞
宗能本山總持寺の後見職を勤めて威望あり明治初年火災に罹り規
模大に衰へたり

○倭屋宗達墓 寶圓寺に在り法橋宗達は金澤の人なり光琳風の
先驅をなせる著名の畫人にして墓は大正二年の發見に係り

○小野太三郎墓 寶圓寺に在り太三郎は金澤の人今の小野慈善



本願寺存如廟所

院々主にして嘗て慈善事業に盡瘁すること四十餘年官賜ふに藍綬
褒章を以てせり

○石川縣立金澤第二中學校 飛梅町にあり明治三十二年の設立
に係り

○吉田長淑墓 上鷹匠町棟岳寺に在り長淑は日本にて衆難を排
し始めて蘭法内科の業を江戸に開きたる醫界の恩人なり

○金澤育兒院 上鷹匠町に在り明治三十八年加奈陀メソヂスト
傳道會社之を設立して孤兒貧兒百名許を收容し教育を施し職業を
教ゆ

○出羽町練兵場 明治十九年出羽町一帶の地區を練兵場とせり

○金澤偕行社 出羽町練兵場の北隅に在り陸軍將校等の集會所
なり

○前田侯爵別邸 兼六公園の東南頭に在り文久三年藩主前田齊



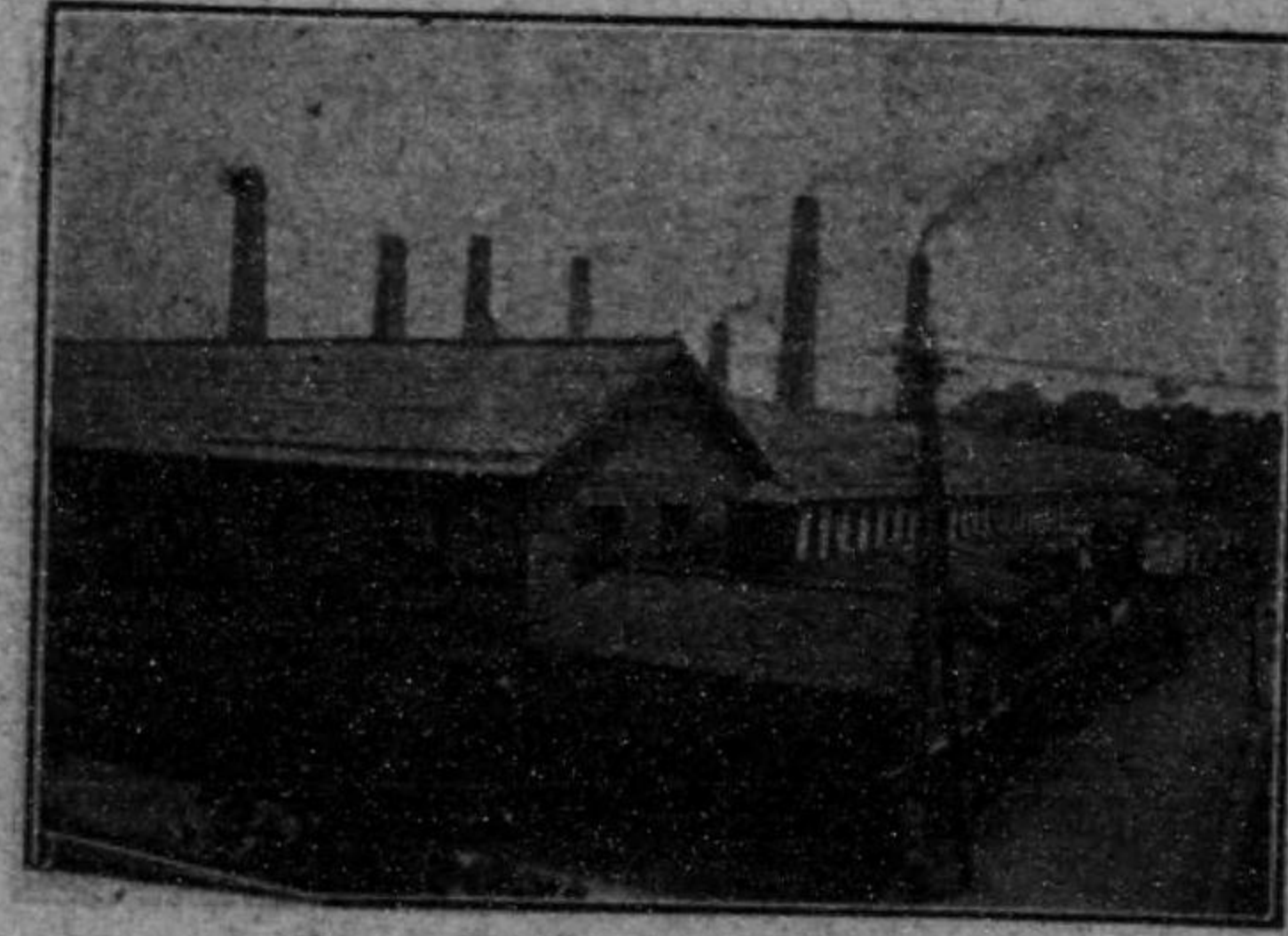
日本銀行金澤支店

廣の母堂隆子が隠栖せし處にして毀新殿と稱へたり廢藩の後石川縣勸業博物館の附屬建物となし成巽閣と稱へたり明治四十二年前田侯爵別邸となせり

○石川縣物産陳列館 兼六公園内に在りて明治四十二年設立せり是より先き明治七年金澤博物館を創設し十三年石川縣勸業博物館と改稱せり之を本館の前身とす館内に本縣製産品の即賣部を設く

○石川縣立圖書館 物産陳列館に隣して建つ明治四十四年の新設に係り

○兼六公園 舊金澤城の東南に隣し小立野の高丘の西北端を占む幽邃閑寂の趣に富み東北方は寥廓にして山海の景勝に富む園名は宏太・幽遠・人力・蒼古・水泉・眺望の六勝を兼ねるに起れり文政二年加賀藩主前田齊廣始めて此に竹澤館を造り山を築き水を



日本硬質陶器株式會社

引きて栖隱せり藩主齊泰亦其跡を繼ぎて亭園を修補せしかは景勝益々加はり廢藩の後縣有公園とせり園中山には紅葉山又の名山崎山と蟻蝶山とあり辰巳用水は山崎山の山脚を穿ちて流れ出づ之を曲水といふ園内を築流し注ぎて池となり落ちて瀑となる其池は一を霞ヶ池といひ池中に鱉甲島あり池畔に蟻蝶山あり一を瓢池といふ瓢池に注下するを翠瀧又の名を松蔭瀧といひ池畔に小堀遠州の好みに成れる夕顔亭あり其露地に後藤程乘の作れる手水鉢あり橋の著名なるを黃門橋・雁行橋とし樹の有名なるを旭櫻・錨松・根上松とす金城靈澤は本名を金洗澤といひ崎入芋掘藤五郎が砂金を洗ひし奇蹟にして金澤の發祥地と聞こふ明治紀念之標は上に日本武尊銅像を置き明治十年西南の役其他に戦死の士卒の英靈を祀る



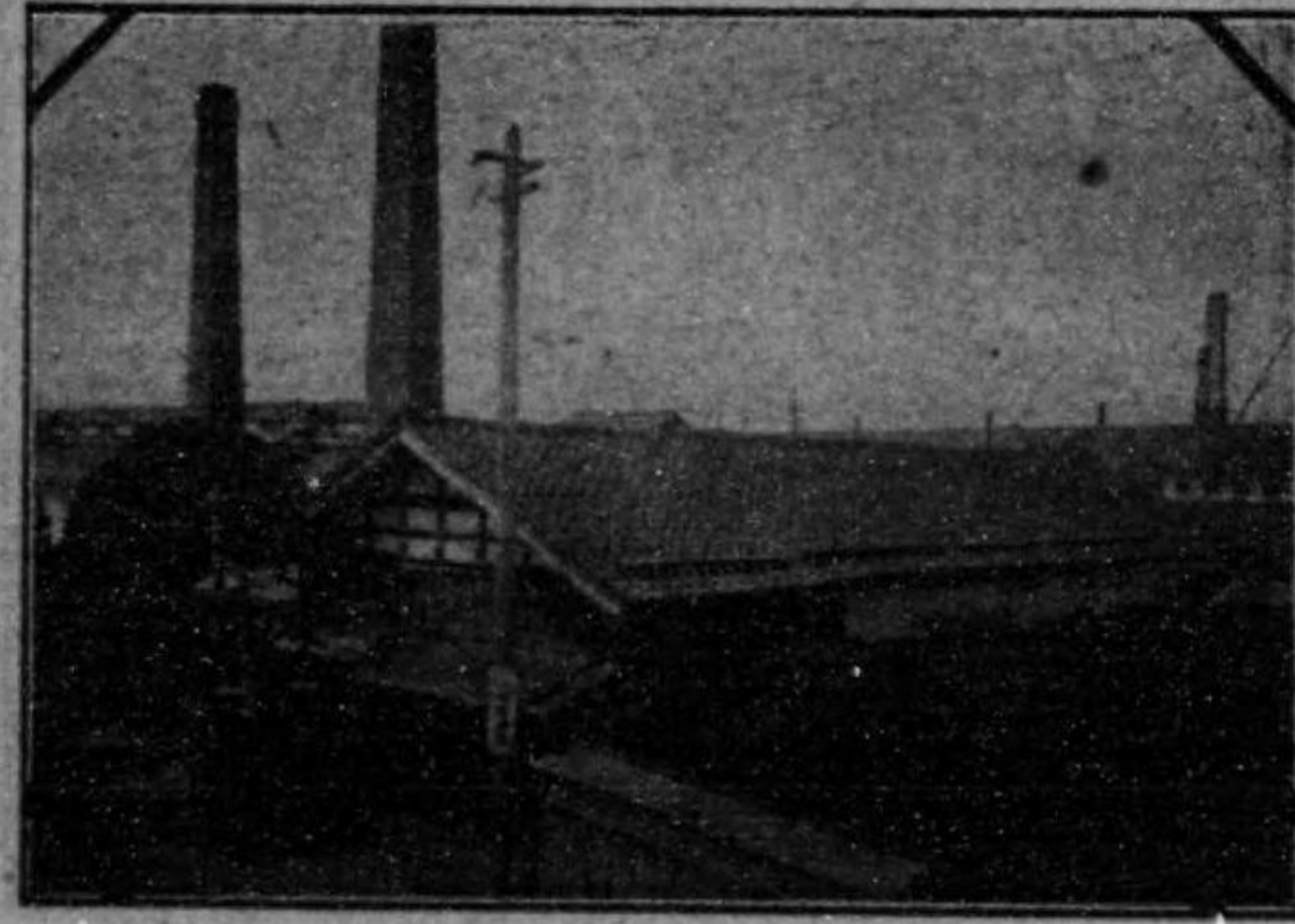
羽二重工場

處に小舎を建て郵便事務を取扱ひたるに起因す爾後幾多の變遷を
 經て今に迫る

○市立女子職業學校 西町四番丁に在り明治三十九年の設立に
 係り女子の職業に必要な智識技藝を授け本科・専修科・補習科
 に分ち専修科を裁縫・刺繡・造花・編物に別つ生徒三百數十名

○金澤米穀取引所 十間町に在り古は米市と稱へ舊藩政の頃は
 加賀・越中・能登三州の米穀取引を一手に握り三百年間米商界の
 一大機關にして全國中其舊きこゝ馬關に亞げり廢藩の後千秋組と
 稱へ又金澤米商會所とも稱へたり

○金澤城址 市の中央に儼在す城地は文明年中本願寺主蓮如初
 めて本源寺を建立したる處にて遂に堡寨を築き尾山城と稱へ城代
 を置きて守らしむること八十餘年に及びたりしが天正八年織田信
 長之を掃蕩し佐久間盛政此に居る同十一年豊臣秀吉盛政を賤ヶ嶽



倉庫精練株式會社

○椿原神社 天神町一丁目に在り永仁五年加賀守護富樫氏建立
 して菅原道真を祀り田井天神と稱へたり加賀藩主前田氏崇敬した
 る神社にして既に縣社に列す

○加能慈惠保護場 備中町に在り明治三十二年大谷派本願寺等
 が免囚保護の爲めに設立したるものにして翌年財團法人の組織に
 改め縣補助金等に頼つて維持す

○金澤地方(區)裁判所 尻垂坂通三丁目に在り明治九年の設立
 にして今の廳舎は明治四十二年の新築に係れり

○合名會社横山鑛業部 大手町に在り横山宗支兩家の經營に係
 れり

○私立金澤盲啞學校 殿町に在り明治四十一年の創立に係り今
 は私立石川縣教育會の附屬事業なり

○金澤郵便局 博勞町に在り明治四年金澤の人吉村某始めて此



本派本願寺金澤別院

に撃ち加賀石川・河北二郡を前田利家に加封せしかば利家此に治所を置き尋て名を金澤城と改めたり前田氏居城二百九十餘年に及び明治二年奉還し六年陸軍省の所轄に歸し名古屋鎮臺の分營となれり但城は屢々火災等に罹り今日纔かに舊觀を存するものは唯石川門あるのみ

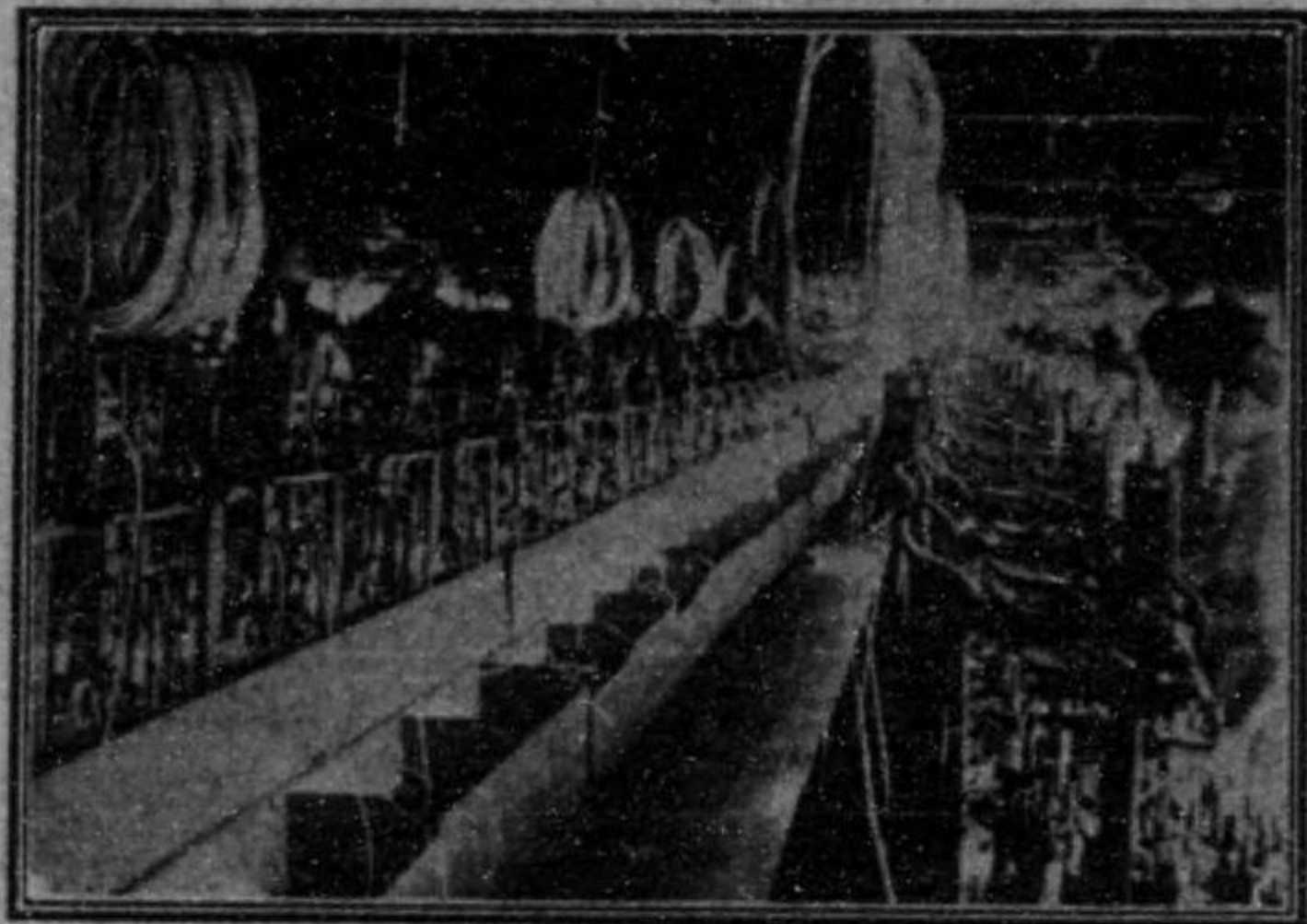
○歩兵第七聯隊 舊金澤城内に在り明治六年歩兵第二十一番大隊を此に置く之を徵兵制度に據れる軍隊金澤に駐屯するの嚆矢とす八年歩兵第七聯隊に改めたり

○第九師團司令部 舊金澤城内に在り明治二十九年第九師團管區を定めて之を置き庭前に明治三十七八年の戦利品を陳列す

○第六旅團司令部 舊金澤城内に在り

○金澤聯隊司令部 舊金澤城内に在り

○金澤憲兵隊本部 西町一番丁に在り



麻真田工場

○金澤商業會議所 西町一番丁に在り是より先き金澤商工會あり市中有力の實業者之を組織し商工業者の代表機關に充てたりしが明治二十四年本所設立の事に任して解散せり議員三十名、特別議員六名を定員とす

○尾山神社 西町一番丁に在り明治六年前田氏舊領加賀・越中・能登三國の士民協同して本社を建立し藩祖前田利家を祀り藩主前田利長・利常を相殿とす七年縣社に列せられ三十五年別格官幣社に陞進せり社地は藩主前田氏の別邸金谷殿の在りし處にて今の神苑の泉水築山は當時庭園の遺れるものなり

○金谷館 尾山神社の北に隣す藩主前田氏の別邸金谷殿の在りし處なるを以て往年官民有志者資を醸して本館を建築し官民の俱樂部に充つるに當り取りて館名をなせり明治四十三年市有營造物となし公會集會の用に供す



一莖數花の紅蓮

○金澤市公會堂 金谷館の北に隣す初め此に金澤區務所あり明治十六年改めて公會堂となし公會集會等の用に供したりしが大正三年に至りて改築せり

○金澤商品陳列所 公會堂の階下に設く陳列品は即賣の需に應ず

○金澤銀行集會所 公會堂の北に隣す大正六年の新築に係れり

○存知廟所 西町一番丁に在り初め金澤城二ノ丸に古墳あり山櫻を植えて驗とす明治十四年城中失火の際土中より枯骨を掘出せしかば西本願寺は之を同寺七世存知の遺骨なりとし此に堂宇を建て改葬して存知廟所と稱へたり

○加州銀行 下堤町に在り市に本店を有する銀行の内其最大なるものにして明治二十五年の開業に係れり



卯辰山公園(歸厚坂)

○神宮奉齋會本部 石浦町にあり俗に大神宮と呼ぶ境内に演劇場、活動寫眞館等ありて常に繁華なり

○日本銀行金澤支店 石浦町に在り明治四十二年の設置にして初め出張所なりしを後ち支店に改めたり

○石川縣農工銀行 石浦町に在り明治三十一年の開業に係れり

○明治天皇行在所 南町に在り明治十一年天皇北陸に巡幸あらせられ金澤に駐蹕し給ふこと四日中屋家の邸宅を行在所となし給ひの玉座門牆今猶存す

○石川縣生絲検査所 長町河岸に在り

○倉庫精練株式會社 長町河岸に在り大正三年石川縣精練・帝國精練兩會社を合併擴張したるものにて生絲及び絹織物の保管と

第五區



卯辰山公園(上杉謙信陣跡)

絹織物輸出羽二重等の精練を營む又社内に石川縣輸出羽二重検査所を設く

○日本硬質陶器株式会社 長町河岸に在り建物の一部は舊金澤擦絲會社の遺なり明治三十八年友田安清等林屋組を起して硬質陶器を製造販賣し四十一年組織を改めて今の名とせり

○金澤專賣支局 長町河岸に在り大正二年此に新築移轉せるにて巻煙草・刻煙草を製造す

○石川縣立第一高等女學校 穴水町二番丁にあり初め市に私立金澤女學校ありしかと明治三十一年に至り市立高等女學校を起し完全なる女子中等教育の基礎始めて成り三十四年縣立に改めたり
○市立商業補習學校女子部 高岡町高等小學校内に併置す大正六年に開設せり
○石川縣原蠶種製造所 西御影町に在り縣立の原蠶種製造所に



卯辰山公園(望湖臺)

して大正五年の新築に係り

○淨住寺 大豆田町に在り正安三年後伏見帝の勅を奉し曹洞宗の名僧登山が建立せる名刹にして創建は永平・總持兩本山よりも舊し花園・後醍醐・光明四帝も亦勅願所となし給へりと云ふ加賀藩主前田氏常に歸依したれと廢藩の後規模大に衰へたり

第六區

○石川縣立金澤商業學校 彦三六番丁に在り明治三十三年市に金澤商業學校を起し次で清鮮露の外國語を加へて隨意に修めしめ四十年縣立に變更せり

○市立商業補習學校 縣立金澤商業學校に併置す明治三十七年の設置にして生徒は常に二百名に垂んとす
○大谷派本願寺別院 横安江町に在り文明三年本願寺主蓮如初



卯辰山公園(招魂社)

めて金澤城内に建立し尾山御坊と稱ふといふ今の地に移轉したるは寛永八年の事にして後ち屢々火災に罹り現に假本堂を毀ちて再建に從事す

○本派本願寺金澤別院 五寶町に在り文明三年本願寺主蓮如來りて金澤城内に建立し本願寺別院と稱へたりといふ加賀藩祖前田利家歸依して准菩提所の格式に列ねたり今の地に移轉せるは實に元和元年に在りき

○千代尼墓 田丸町専光寺に巾幘俳人として名高き加賀の千代の墓處あり千代の生家福増屋は専光寺の門徒なるに依り此に葬れりといふ

○一莖數花の紅蓮、木ノ新保六番丁持明院の瑞蓮池に眞言宗の高僧空海が印度より種子を齎らしたる紅蓮あり一莖に少きは三輪五輪多きは十數輪の花を著く市中隨一の奇蹟にして又國中無比の



卯辰山植林

名花なり

○安江神社 鍛冶町に在り應神天皇を祀り俗に鍛冶八幡といふ天慶二年の勸請にして初め石川郡安江郷内に在り天正中現地に移せるにて今は郷社に列し氏子の多きこと市中諸社の第二位に在り

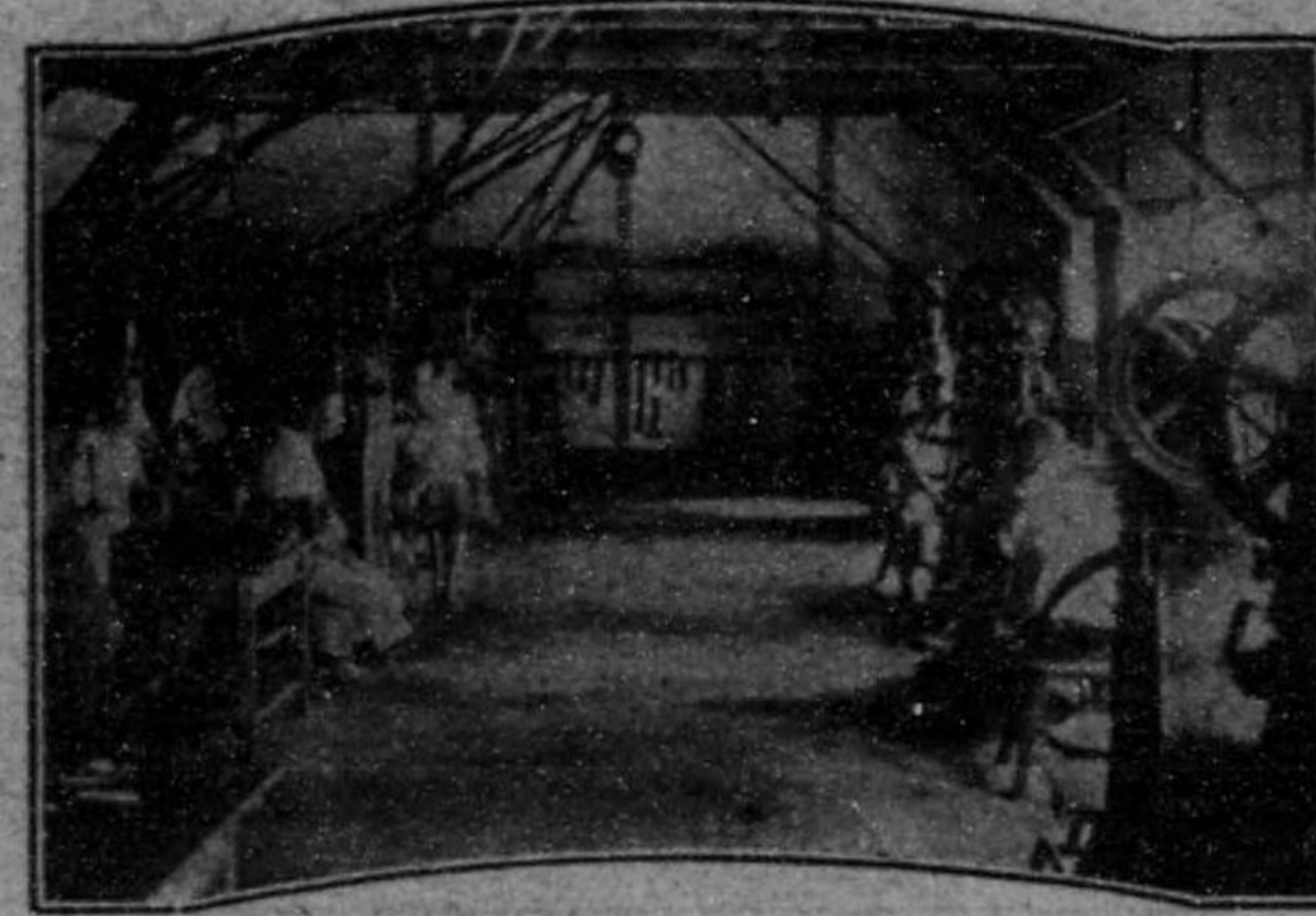
○金澤運輸、保線兩事務所 中部鐵道管理局の運輸保線兩事務所は島田町に在り

○金澤停車場 明治三十一年北陸鐵道西より來りて初めて市に通じ此に停車場を置き後ち屢々増築等を行へり

○鐵道院金澤工場 金澤停車場の後背にあり

○金石電車發着處 長田町の端陞に在り

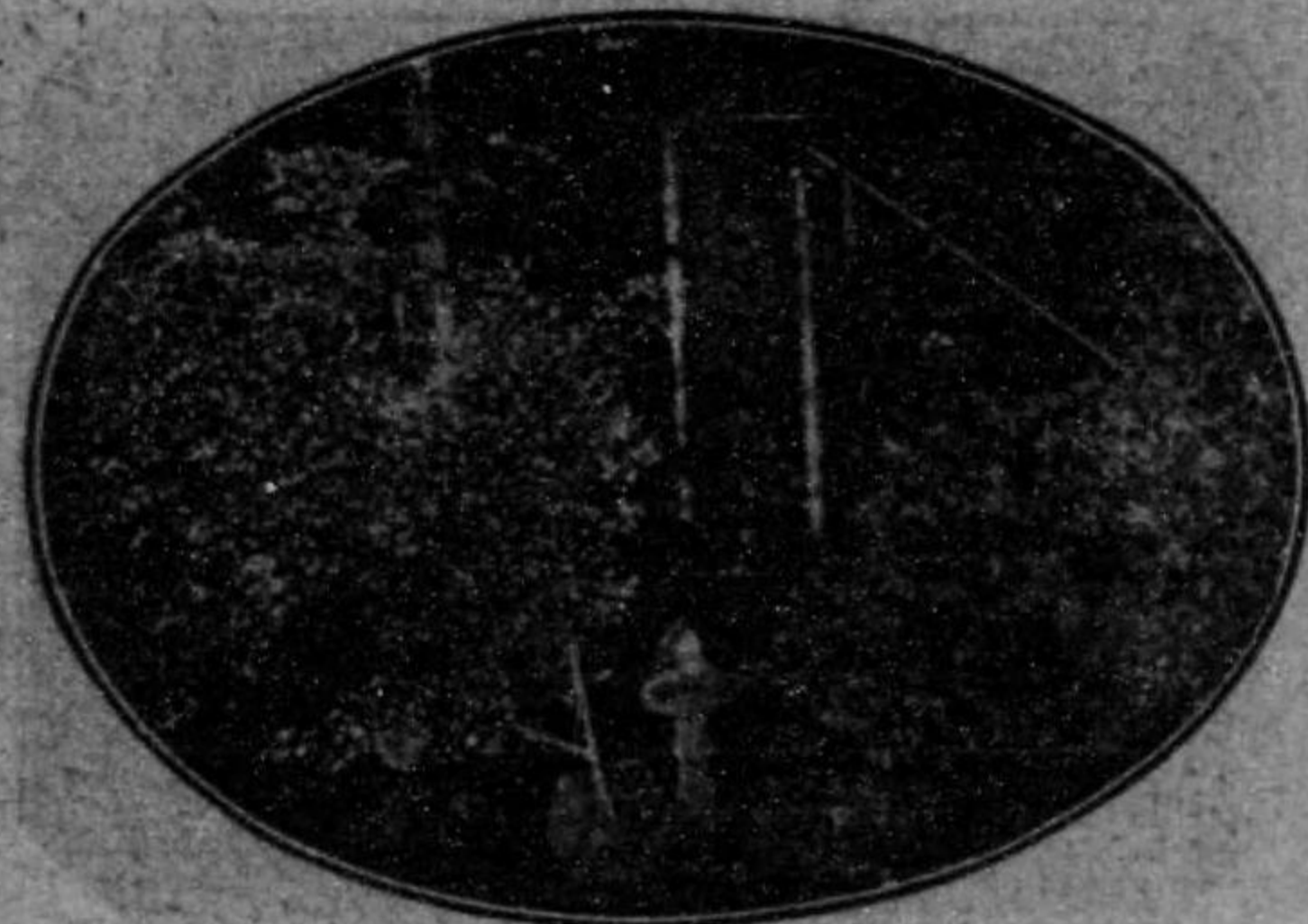
○梨畑 長田町の郊端に多く梨を植ゆ明和六年越後國より苗木を移し初めて栽培したるにて次第に繁殖し其上品を明月と名づく



製箔工場

第七區

○卯辰山公園 卯辰山は本名を宇多須山といふ俗に向山と唱へ雅名を臥龍山と呼ぶ市の東北に蜿蜒し淺野川は其東麓を流る慶應三年加賀藩主前田慶寧山上開拓の工を起し路を通し屋を建て山上に數多の町名を立て或は貧病院を起して養生所といふ救貧場を建て、撫育所といふ演劇場あり遊戯場あり一時繁華の區となりしかと數年を経て荒敗に歸したり大正二年以降市は連りに山上に改修を加へ市有公園となし以て市民の縦遊に便し越えて四年市は御即位大禮記念事業として歸厚坂を改修し以て登降の便を圖れり山上は遠くは湖山の景勝に富み近くは市中を指顧の中に瞰るを得て登遊する者四時絶ゆることなし又山中に市の植林事業を始め檜・樺・杉等最も多し



那留波瀧

○小野慈善院 常盤町に在り今より四十餘年前小野太三郎始めて窮民を收養し獨力經營して比年其規模を大いに明治三十八年始めて有志者の援助を得て此に院舎を新築し翌年財團法人の組織に改めたるにて常に二百數十名の鰥寡孤獨を收容す

○招魂社 卯辰山に在り招魂臺とも顯忠廟とも稱ふ明治元年越後戦争に戦死したる加賀藩士卒のために金澤藩知事前田慶寧が建立して其靈を祀れるものなり爾後毎年官祭を修するを例とす

○上杉謙信布陣址 卯辰山に在り其地は素と葦ヶ峰とて山中の高頂なりしかさ山上開拓の時崩して稍々平坦の地を得之を景雲臺と稱ふ今は卯辰神社・豊國神社並び建つ

○忠魂祠堂 觀音町の東頭山上に在り日清戦役戦死病歿者の位牌を安す浄土宗本山の經營に係れり

○東廡演舞場 御歩町に在り東廡藝妓の歌舞練習處にして此花



小野慈善院

踊の名最も著はる

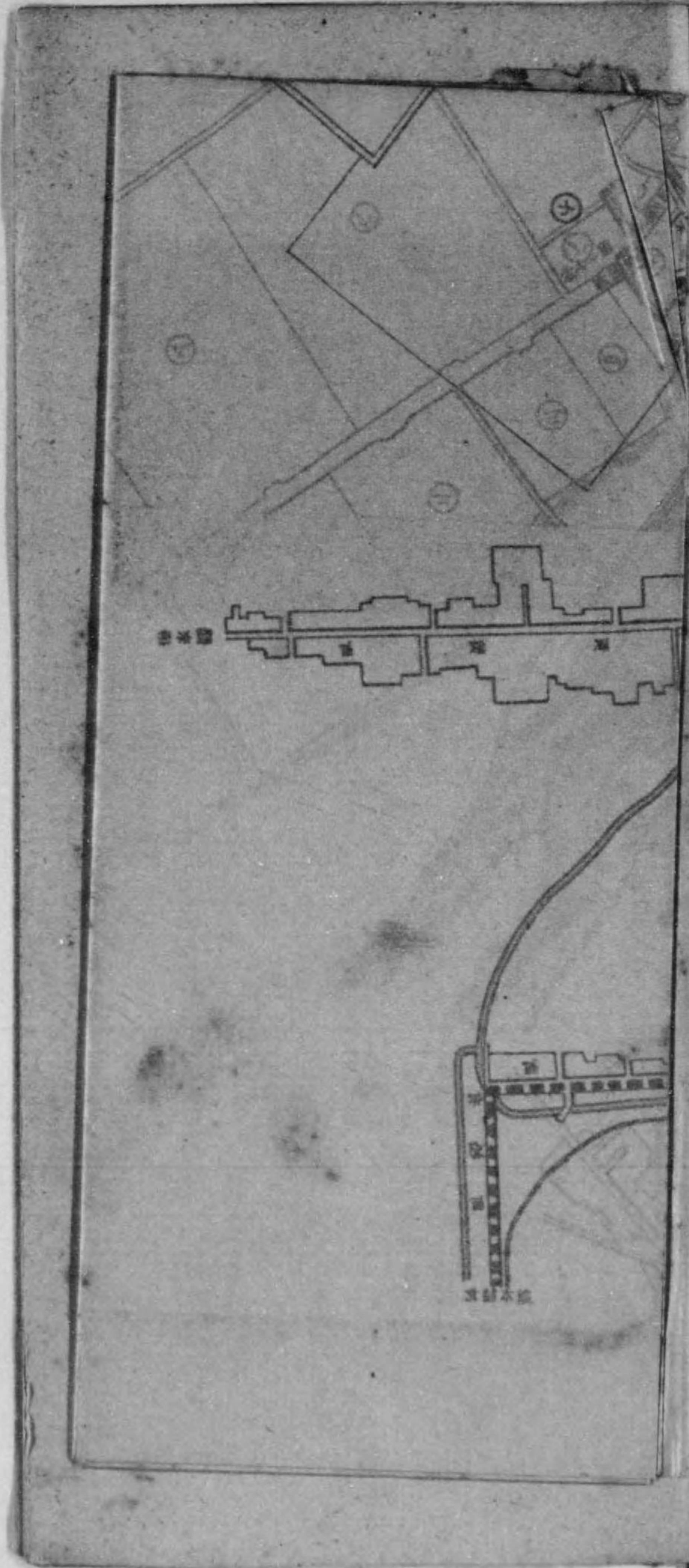
○宇多須神社 八幡町に在り大國主命を祀れる縣社なり養老二年僧泰澄の勸請にして俗に毘沙門天と唱へ國史に現存する舊社なりといふ

○初代中村歌右衛門墓 上小川町眞成寺に在り歌右衛門は金澤の人、加賀屋と號し其名劇界に高し

○石川縣育成院 高道新町の東頭山上に在り縣が感化法に據り設立したるものにて不肖少年を收養し感化を興へ業務を教ゆ

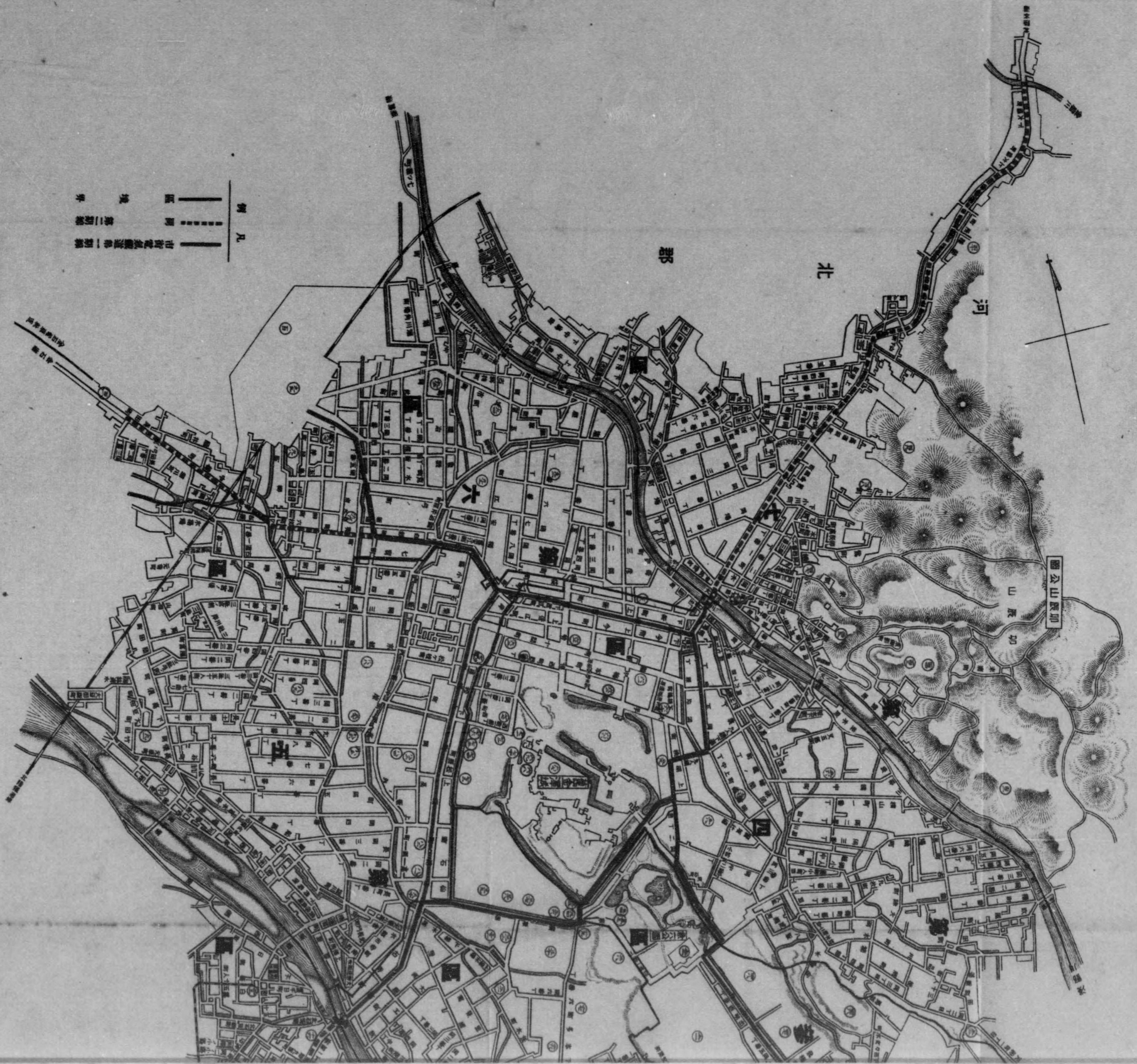
○那留波瀾 山ノ上町の後背に在り口碑に據るに古時源義經奥州に落延びたる時辨慶と共に安宅關を過ぎ此に來りて悲ひ瀧水を掬して涙を醫し辨慶は延年の舞を奏し那留波瀾の水と諺へりといふ

(金澤市要覽終)

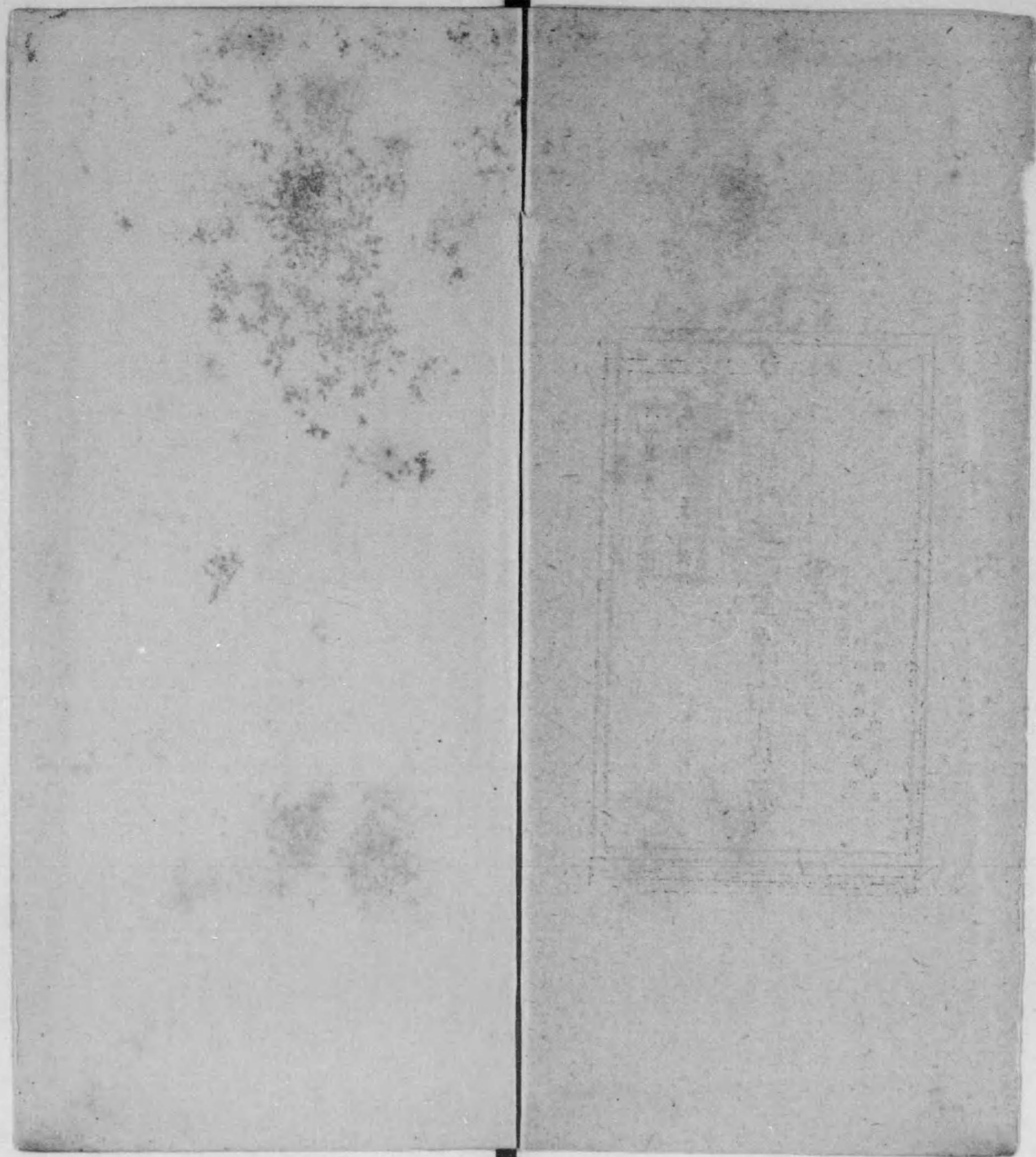


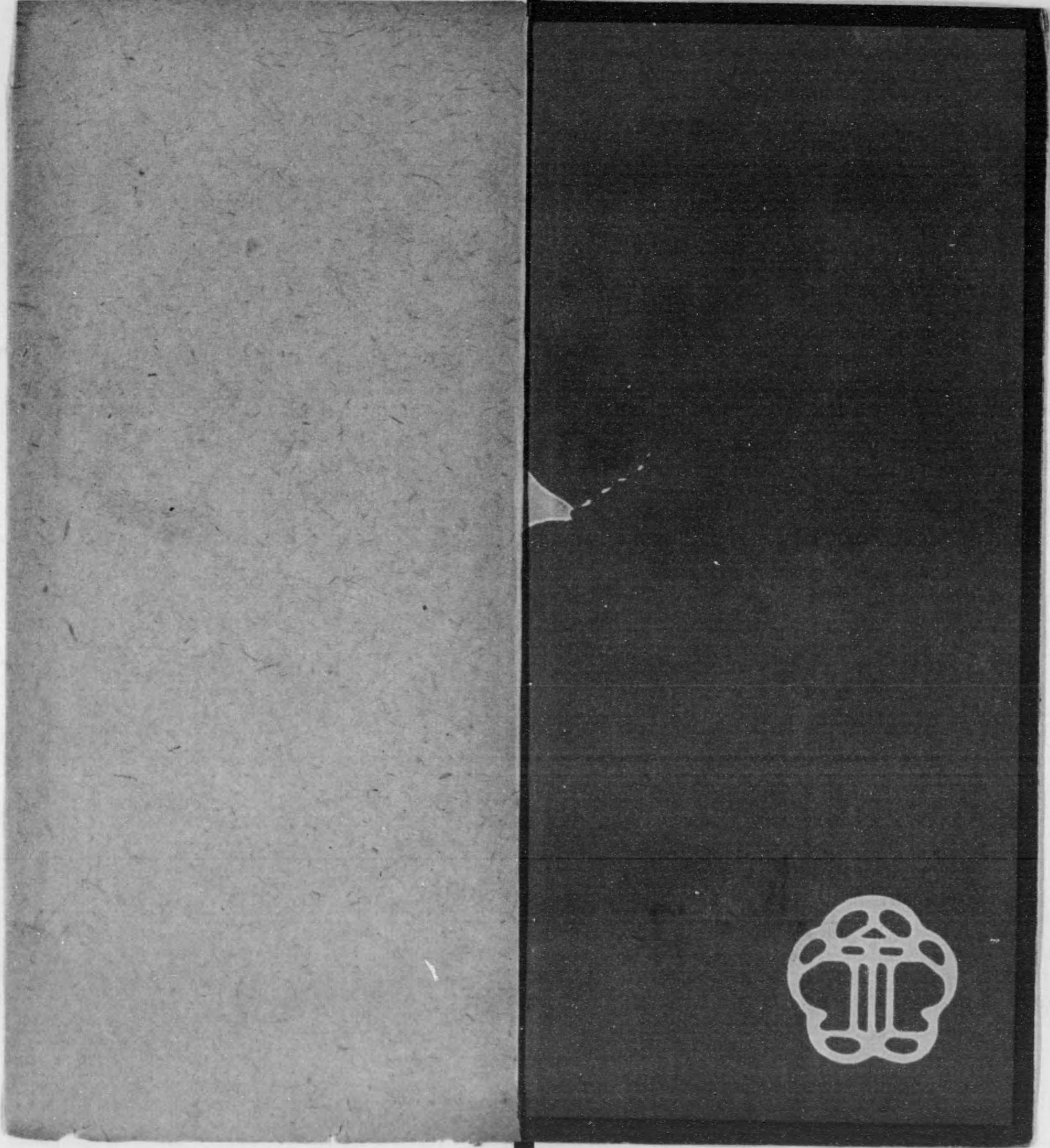


金澤市街地圖



凡
市街電氣鐵道第一期線
第二期線
區
境





327
989

終